

神奈川県立鎌倉高等学校	文理融合基礎枠
指定第Ⅰ期目	07～11

①令和7年度スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告（要約）

① 研究開発課題											
科学的思考力を備え多様な知識や情報を統合して総合知を活用する科学技術人材を育成する研究											
② 研究開発の概要											
研究開発課題に向けて、以下の仮説（Ⅰ～Ⅲ）による取り組むこととする。											
Ⅰ：3年間にわたり取り組む課題研究において、大学、研究機関、地元自治体等との連携により、協働的、実践的に課題解決に取り組むプログラムの開発・実施 →クリティカルシンキング、データ分析・活用力、課題発見力、協働力、統合的思考力を育成することができる。											
Ⅱ：各教科の本質を追求する深い学びと、文理の枠や教科の枠を超えた横断的で探究的な学びを教科の授業で実践するとともに、新たに開発する文理融合講座を通して異なる領域の知識や情報を統合させる学びの実践 →クリティカルシンキング、統合的思考力を育成することができる。											
Ⅲ：大学・研究機関・地元自治体との連携を活用して科学分野の実践的、体験的な講座や講演会、サイエンスカフェの実施、カマクラブによる高度な探究活動等や、英語を活用した国際的な体験の機会を設ける →クリティカルシンキング、データ分析・活用力、課題発見力を育成することができる。											
③ 令和7年度実施規模											
課程（ 全日制 ）											
学 科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計		実施規模
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	
普通科	317	8	317	8	350	9			984	25	全校生徒を対象に実施
理系	二	二	161	4	180	5					
文系	二	二	146	4	170	4					
課程ごとの計	317	8	317	8	350	9			984	25	
○男子生徒：53.7%、女子生徒：46.3%（令和8年1月末現在）											
○時間割上の1コマの時間：65分											
④ 研究開発の内容											
【○研究開発計画（年次概要）】											
第1年次 （R7年度）	Ⅰ・1学年における理数探究基礎（2単位）の実施。 ・2学年の課題研究におけるルーブリック評価案の作成と試行。 ・3学年の論文作成における英語アブストラクトの導入。 Ⅱ・文理融合をテーマとした公開研究授業の実施とSSHトピックスの導入。 Ⅲ・カマクラブの実施。 ・科学系コンテストへの生徒の参加。 ・海外校との連携の模索。										
第2年次 （R8年度）	Ⅰ・2学年における理数探究の実施。 ・3学年の論文作成におけるルーブリック評価案の作成と試行。 ・大学院生メンター等の外部人材活用の拡充 Ⅱ・文理融合講座の開講、教材開発の着手。 Ⅲ・カマクラブの実施回数や連携機関の拡大。 ・科学研コンテストへの参加人数の増加。 ・研究発表会への参加回数の増加										

	・連携先の海外校の決定
第3年次 (R9年度)	Ⅰ・3学年における理数探究の実施。 ・課題研究の高度化。 Ⅱ・研究授業・SSHトピック・文理融合講座の成果を基に文理融合教材の開発。 Ⅲ・校外発表の拡大 ・海外校との共同研究を試行。
第4年次 (R10年度)	・中間評価の結果を踏まえ、改善すべき項目、充実すべき項目などを整理・検討するとともに、これまでの研究開発の成果と課題をまとめ、教員研修会やSSH連絡協議会で共有するとともに、HP等を活用し普及・広報活動を積極的に行う。
第5年次 (R11年度)	研究成果をまとめ、成果を公表するなど、広報・普及活動を行う。在校生の経年変化、卒業生の追跡調査5年間の取組の総括・第Ⅱ期に向けての準備

【教育課程上の特例】

- ・該当なし。

【令和7年度教育課程の内容のうち特徴的な事項】

- ・令和7年度から教育課程を大きく変更し、今年度の入学生からは2学年までは文理によるコース分けを行わず、全生徒が幅広い学びを行う教育課程とし、文理融合を進めることを通して、総合知を活用できる人材の育成を目指す。
- ・1学年の「理数探究基礎」を2単位とし、2学年に行われる課題研究に向けて、研究手法、データの分析法、研究の演習を通じて、クリティカルシンキング、データ分析・活用力、課題発見力、協働力、統合的思考力を育成し、2学年で実施する課題研究の基盤を整える。
- ・課題研究に係る取組み(令和7年度～9年度)

学科・コース	第1学年		第2学年		第3学年		対 象
	教科・科目名	単位数	教科・科目名	単位数	教科・科目名	単位数	
普通	理数・理数探究基礎	2	理数・理数探究	1	理数・理数探究	1	全生徒

SSH研究開発における育成したい資質・能力は以下のとおりである。

- 1 クリティカルシンキング：物事の本質について、多角的、論理的に捉え、あらゆる可能性を吟味して、根拠やデータに基づき判断する能力
- 2 データ分析・活用力：データサイエンスの視点をもって、適切にデータを収集し、整理、分析して、結果をまとめ、その結果を活用して判断する能力
- 3 課題発見力：事象を多面的・多角的に分析して課題を見出す能力
- 4 協働力：他者の意見や考え方を尊重して受け入れ、調整を図りながら、協働して課題解決に取り組む能力
- 5 統合的思考力：多角的な視点を持ち、様々な分野や領域における知識や考え方から課題の解決策を導き出す能力

【具体的な研究事項・活動内容（令和7年度）】

- Ⅰ：3年間にわたり取り組む課題研究において、大学、研究機関、地元自治体等との連携により、協働的、実践的に課題解決に取り組むプログラムの開発・実施
- 1学年の理数探究基礎を1単位増単し、令和7年度から2単位とした。1単位はホームルームクラスごと、1単位は学年同時展開とした。授業担当は、ホームルームクラスごとの授業は数学又は理科の教員が担当し、学年同時展開では、理科の教員が作成した授業計画に基づき、各クラス担任が担当した。ホームルームクラスごとの授業では、データ分析に関する知識や技能を身に付けるための演習や実習をおこなった。学年同時展開の授業では、クリティカルシンキングを働かせたデータの読み取りやRESAS(地域経済分析システム)を活用した地域課題解決のための演習・発表を行った。

・ホームルームクラスごとの授業で行われた内容

時間	学習内容	主な学習のねらい
1	データの種類と収集方法	データの種類と収集の仕方を理解し、課題に応じた収集方法を考える。
2	標本調査と標本抽出法	標本抽出の考え方を理解し、偏りの少ない調査方法を考える。
3	データの分布と相関分析	データの傾向を捉え、その分布と相関関係を分析する。
4	統計的検定の基礎	データの違いが偶然かどうかを統計的に判断する考え方を理解する。
5	批判的グラフ読解	グラフの構成意図を読み取り、誤解や印象操作を見抜く力を養う。
6	シミュレーションの基礎	モデル化の考え方を理解し、確率的現象や確定的現象を数理的に表現する。
7	シミュレーションの活用	感染症の拡大を題材に、パラメータを変えて結果を比較・考察し、学級閉鎖の妥当性を論理的に説明する。
8 ～ 12	広町緑地・神戸川フィールドワーク実習	実際の環境データを収集し、自然現象をデータとしてとらえる力を養う。また、自らの観察や測定結果から課題を発見する。

・学年同時展開で行われた授業内容

時間	学習内容	主な学習のねらい
1	NASA ゲーム	NASA ゲームを通じて、他人と議論を通じ、コンセンサスを得る手法や考え方を学ぶ。
2	クリティカルシンキング演習	クリティカルシンキングの定義を理解し、演習を通じてクリティカルシンキングを活用する。
3	研究手法の違いを理解する	仮説検証型の研究と仮説生成型の研究について理解する。
4	課題を発見する	物事から課題を発見するワークを通し、課題を発見する見方や考え方を学ぶ。
5	仮説を立てる	観察事実から、仮説と検証手段を考えるワークを通し、仮説を設定する見方や考え方を学ぶ。
6	仮説を磨く	仮説と帰無仮説について学ぶ。
7 ～ 11	街の課題を考える	RESAS(地域経済分析システム)を活用し、鎌倉市の課題を発見し、課題解決方法を考え、発表する。
12 ～ 13	課題研究にむけて	2 学年の行う課題研究に向けて、テーマの設定やグループの作成、課題の設定とその検討を行う。

・1 学年「理数探究基礎」の授業において、学校付近にある鎌倉広町緑地を管理するNPO法人「鎌倉広町の森市民の会」と連携した授業に取り組んだ。

〔授業のねらい〕

データを収集・整理・分析し、分布や相関、統計的検定などの方法を用いて現象を科学的に捉える力を育成する。さらに、モデル化やシミュレーションの考え方や広町緑地や神戸川のフィールドワーク実習を通して、数理的に現象を再現・予測し、課題研究における仮説検証や結果考察に活用できる力を身に付ける。

〔授業のすすめかた〕

分析対象を緑地内の水質変化、緑地近くを流れる神戸川の水質変化、緑地内のドングリの特徴と捕食率の3グループに分け、実習をおこなった。各授業のスケジュールは以下の通り。

○広町緑地内の川の水質変化の調査

回	内容
1	pH メーターの使い方
2	緑地内の川（水系）を案内してもらい、ポイントを設置する。
3	第1回計測
4	第2回計測
5	考察・仮説の生成・ポスター作製
6	ポスター発表

○神戸川の水質変化の調査

回	内容
1	pH メーターの使い方
2	緑地内の川（水系）を案内してもらい、ポイントを設置する。
3	第1回計測
4	第2回計測
5	考察・仮説の生成・ポスター作製
6	ポスター発表

○広町緑地内のドングリの特徴と被捕食率

回	内容
1	ノギス・電子天秤の使い方
2	緑地内のドングリがなる木（コナラ・クヌギ）を案内してもらい、ポイントを設置する。
3	第1回計測
4	第2回計測
5	考察・仮説の生成・ポスター作製
6	ポスター発表

○2学年の「総合的な探究の時間」では令和8年度の2学年「理数探究」で実施される「課題研究」を見据えて、令和6年度まで実施してきた「課題研究」の年間スケジュールの再検討を行い、中間発表までに1～2回の検証実験を行い、データを収集・分析することを全グループで必須にした(下記の表参照)。また、令和8年度の理数探究を見据え、ルーブリック評価表を作成し試行し、令和8年度に向けた成果と改善点を明確にする。これらの内容をゼミ担当となる教員に共有・協議するため、ほぼ毎週担当者会議を設けた。

回	内容
1	オリエンテーション・班編成・課題設定
2	ゼミ担当教員との顔合わせ・予備調査計画・予算申請①
3	データ収集
4	データの整理・分析・課題の修正・仮説の設定・予算申請②
5	データ収集
6	データ収集
7	データ収集
8	データの整理・分析・中間発表スライド作成
9	中間発表会
10	検証方法の修正・データ収集
11	データ収集

12	データ収集・整理・分析
13	データの整理・分析
14	データの整理・分析
15	研究要旨執筆・ポスター作製①
16	ポスター作製②
17	発表練習
18	ゼミ内発表会
19	発表会

○3学年の「総合的な探究の時間」では、令和9年度の3学年「理数探究」で実施される研究内容の論文作成で予定している英語アブストラクトを令和7年度から導入し、成果と改善点を明確にし、令和8年度の試行につなげる。

○課題研究を行っている2学年の生徒を中心に、JAMSTEC内にて実験指導と施設見学を行うサイエンスツアーを実施した。

○2学年の課題研究活動において院生・学部生をメンターとして配置した。概要は以下の通り。

- ・所属：慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス 政策・メディア研究科
- ・メンターの内訳：院生2人、学部生1人が各2グループのメンターとして配置した。
- ・配置された研究活動内容：運動系の研究4グループ、動物の生態の研究1グループ、菌に関する研究1グループ
- ・メンターによる指導回数：述べ9回
- ・指導・助言の形式：オンラインを活用

Ⅱ：各教科の本質を追求する深い学びと、文理の枠や教科の枠を超えた横断的で探究的な学びを教科の授業で実践するとともに、新たに開発する文理融合講座を通して異なる領域の知識や情報を統合させる学びの実践

○鎌倉高校SSHの研修内で、文理融合についての説明を行い、職員の共通理解を図った。

○10月に文理融合をテーマとした公開研究授業を国語・地理歴史・数学・理科・外国語(英語)・家庭科・理数の各科目で実施し、研究協議を行った。

〔授業一覧〕

科目	授業内容・単元
論理国語	理系論文リテラシー ～知ろう・やってみよう編～
歴史総合	近代化を考える
数学Ⅰ・A	算額(図形の性質)
物理基礎	エネルギーと歴史
英語コミュニケーションⅡ	Endangered Species in Japan - “Kunimasu”
保健	飲酒と健康について
理数探究基礎	シミュレーションを用いた社会課題の解決(導入)

○各授業において、1単位につき年間1,750分の1%である17.5分以上を目安として、授業担当教員が、授業に関わる文理融合的な題材や、自分の専門分野における科学的な先端分野の内容を扱う「SSHトピック」を実施した。

〔今年度実施されたSSHトピックの一覧〕

科目	対象学年	内容
情報Ⅰ	1年	バイアスとヒューリスティクス(思い込み)について
化学	2年	「エントロピー増大の法則」について「動的平衡としての生物多様性(著：福岡伸一)」と結び付けながら、化学的視点・哲学的視点から考察する。
化学	2年	【平衡移動の観察と色の定量化】

化学	2年	芳香族化合物の置換基の配向性に関する電子効果
化学	2年	電子の非局在化、共鳴安定化
化学	2年	不斉炭素、身近な不斉
地理探究	3年	消滅可能性自治体に該当しない自治体の違いは何か考える
化学	3年	合成高分子と歴史の関連
世界史研究	3年	中東問題の現状と国際政治

○11月下旬に、データサイエンス分野の研究による文理融合講座を実施した。概要は以下の通り。

・講師：慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス 政策・メディア研究科

修士2年 島孝明

・内容：元プロ野球選手である講師により、日本のプロ野球やメジャーリーグにおけるデータの活用事例を通し、データサイエンスに関する講義を行った。

Ⅲ：大学・研究機関・地元自治体との連携を活用して科学分野の実践的、体験的な講座や講演会、サイエンスカフェの実施、カマクラボによる高度な探究活動等や、英語を活用した国際的な体験の機会を設ける。

○夏季休業中にカマクラボとして、生物分野の研究者、化学分野の研究者による実験及び講義を実施した。また、中外製薬を訪問し、薬学の研究についてのグループワークと施設見学を実施した。

○4月に1学年対象として観光学の研究者による理数講演会を実施した。月に文理複数分野の研究者12名を招聘し、研究者1人につき30名程度の生徒に対しワークショップと講義を行うサイエンスカフェとを、それぞれ実施した。

○3月に、科学研究会の生徒が沖縄へのサイエンストリップを実施し。現在、研究を進めている藻場の再生実験に関して、藻再生を酒粕で行っている企業と連携した実験指導を受けるた。また、旅行最終日にはOISTを訪問し、講義を受講し、施設見学を行った。

○沖縄にて酒粕を用いた藻の再生研究に取り組んでいる企業「株式会社AlgaleX」と連携した研究を開始した。

○1月上旬に横須賀基地内にあるアメリカンスクールとの交流を半日実施した。

○3月下旬にニュージーランドへの海外研修旅行を実施し、1，2学年の生徒60名が参加した。

○11月に神奈川県が主催する英語ディベート大会へ参加した。

○海外校との共同研究に向けて、アメリカのナッシュビル市、オーストラリアの姉妹校を中心に検討を開始した。

○以下の学校へ視察した。

視察先高校	内容
大阪府立四条畷高等学校	左記の高等学校と筑波大学付属駒場中・高等学校、大阪府立四天王寺高等学校、京都府立洛北高等学校の教員による公開研究授業の参観及び研究協議への参加
山梨県立甲府南高等学校	教科横断型授業の参観及び研究協議会への参加
横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	英語で理科の実験を行う「サイエンスイマージョン」を参観
神奈川県立厚木高等学校	「STEAM教育の視点を取り入れた探究的な授業実践」をテーマとした授業の参観及び研究協議への参加
奈良県立奈良北高等学校	文理の枠を超えた課題研究の発表の参観、及び事業取組経過等について当該校管理職からの聞き取り

⑤ 研究開発の成果

(根拠となるデータ等は「③関係資料」に掲載。)

【成果(主な到達点)※実績値は③関係資料のデータで補完】

I：3年間にわたり取り組む課題研究において、大学、研究機関、地元自治体等との連携により、

協働的、実践的に課題解決に取り組むプログラムの開発・実施

- ・1学年の「理数探究基礎」において、ホームルームクラスごとの授業では、データの分析手法やシミュレーション演習、野外実習によるデータ収集とその分析など仮説検証型の授業を通し、2年の課題研究で必要となる技能を身に付ける取組を行うことができた。学年同時展開の授業では、クリティカルシンキングを働かせる教材の開発やRESASを用いた地域課題の発見と発表など、仮説生成に必要な資質を育成するための取組を行うことができた。
- ・理数探究基礎において5つの力が身に付いていると感じているかを測るアンケートの回答にて、全ての項目において肯定的な回答が55%を超えている。また、生徒による授業評価アンケートにおいても全ての質問項目において肯定的回答が90%を超えている(③-2)。5つの力を意識した授業、主体的で対話的な学び、探究的な学び、を意識した授業の成果といえる。
- ・課題研究の最終発表ポスターのルーブリック評価表で各評価「S」「A」「B」「C」の4段階の評価基準を設け、それぞれ10点、8点、5点、3点を割り当て、各評価の平均は「ポスター作成力」が6.79、「データ分析・活用力」が6.92、「クリティカルシンキング」が5.28、「統合的思考力」が5.74、「課題発見力」が6.66(③-5)であり、今後の指標とする。
- ・2学年課題研究において令和5(2023)年度、令和6(2024)年度と比較すると自然科学分野テーマに取り組む班があり、55班(全体の66%)となっている(③-6)。また、ルーブリック評価表の評価基準に統計的手法の取組を設けたことで、t検定などの統計的手法を用いたデータ分析を行った班が10班あった。(③-6)。
- ・「かながわ探究フォーラム」「SSH生徒研究発表会」へ参加希望する班が、昨年度の3班から9班に増加し、生徒の発表会参加への意欲が高まった。
- ・3学年の論文作成において英語アブストラクトについてルーブリック評価表を作成した。80%以上の生徒が100語以上かつ内容に読み手に伝えられるレベルで記載していた。(③-7)。
- ・教員向けアンケートでは、「SSHが「3年間を通じた課題研究」を中核としていることを理解している」の肯定的回答が70%を越えている(③-13のA3)ことから、課題研究の重要性が職員間で浸透しており、SSH研修会と全職員が理数探究基礎や課題研究、論文作成のいずれかに関わっている成果といえる。

Ⅱ：各教科の本質を追求する深い学びと、文理の枠や教科の枠を超えた横断的で探究的な学びを教科の授業で実践するとともに、新たに開発する文理融合講座を通して異なる領域の知識や情報を統合させる学びの実践

- ・②③の結果から講座を通し、文理融合講座により参加生徒の「文理融合」や「データサイエンス」への興味関心が高めることができた(③-8の②、③)。また、「5つの力」や探究活動への活用意識が高まった(③-8の⑦⑧⑨⑩⑪⑫)。
- ・今年度SSHトピック9授業において実施した(③-9)。
- ・教員向けアンケートでは、「文理融合」「総合知」の内容に関する肯定的回答がいずれも50%を越えていることから両者に関する内容の理解があり、授業で扱うイメージがある(③-13のA7、A8)。SSH研修会や公開授業や授業改善の取組の成果といえる。また、B3の肯定的回答が50%を越えている(③-13のB3)。これは、同アンケートのB8の肯定的回答が70%を越えていることから、グループワークなどの協働的な学習を多く取り入れた授業を展開している成果の一つと考えられる。

Ⅲ：大学・研究機関・地元自治体との連携を活用して科学分野の実践的、体験的な講座や講演会、サイエンスカフェの実施、カマクラブによる高度な探究活動等や、英語を活用した国際的な体験の機会を設ける。

- ・1学年の「理数探究基礎」において、鎌倉広町緑地を管理するNPO法人「鎌倉広町の森市民の会」と連携したデータ収集・分析実習を行うことができた。また、2学年の「課題研究」では慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの院生・学部生3名をメンターとして複数の研究グループに配置し、1年間をとおして生徒が助言・指導を受ける体制をつくることができた。
- ・令和7年度初めて、科学の甲子園予選へ参加することができた。また、参加した生徒が、大会への勉強会を通じて、科学的な思考力の向上を実感することができた。
- ・神奈川県が主催する生徒研究発表会「かながわ探究フォーラム」に12名参加、発表件数は3件となり昨年の2件より増加した。
- ・カマクラブに参加した生徒のアンケートで肯定的回答が50%以上に達している。特に、「今後の

探究活動や学習に活かしたいと思う」の肯定的回答は90%を越えている。(③-11)。

- ・ 科学研究会が海洋生態系研究の分野で外部機関と連携し、長期的かつ持続的な研究を開始した。
- ・ 生徒意識調査アンケートにて「先端の科学研究分野について触れる機会がもっと欲しいと思っている。」の肯定的回答が1学年48%、2学年55%と約半数が先端科学分野への興味関心が高い。(③-12 設問17)理数教育講演会、サイエンスカフェ、サイエンスツアー、サイエンストリップなどの外部連携による成果と考えられる。
- ・ 科学研究会が漁業組合や本校OBが務める企業と連携し海藻の研究を開始した。その一環として3月に沖縄へ2泊3日のサイエンストリップを実施した。
- ・ 今年度初めて、1学年3名、2学年5名の生徒が科学の甲子園に参加した。参加に向けて、放課後に教員の指導の下、勉強会を開催することができた。また、2学年2名の生徒が地理オリンピックの予選会に参加した。

IV：その他

- ・ 生徒意識調査アンケートにて「理科や数学、情報の知識や技能を使って物事を分析し実証や検証をすることは重要なことであると考えている。」の肯定的回答が1学年83%、2学年80%(③-12 設問14)、「理科や数学、情報の授業において学習した知識や技能を使って、色々な分析や実験を試してみたいと思っている。」の肯定的回答が1学年51%、2学年55%(③-12 設問16)となっている。理数系分野に関する意識が高い→昨年度までの理数教育推進校からの取組、今年度からのSSHの取組による成果といえる。
- ・ 教員アンケート(③-13)のB10, B11の肯定的回答がそれぞれ、60%、80%を超えており、SSH研修会の実施と理数探究基礎や課題研究、論文作成のいずれかに教員全員が関わっている成果といえる。

⑥ 研究開発の課題

(根拠となるデータ等は「③関係資料」に掲載。)

【課題・改善の方向性】

I：3年間にわたり取り組む課題研究において、大学、研究機関、地元自治体等との連携により、協働的、実践的に課題解決に取り組むプログラムの開発・実施

- ・ 2学年課題研究のポスター評価において各評価値の個数をみると、データ分析・活用力において「評価A」の数が「評価B」の数より大幅に多く(③-5)、データ分析・活用力の評価基準が適切でなかったと考えられる。

〈原因〉

評価をつける教員の負担軽減や教員間における評価のズレを生み出さないために、容易な評価基準を作成したことが原因として考えられる。

〈改善〉

課題研究担当者会議において、データ分析・活用力に関する資料を使った研修の実施、情報科の教員との連携を深めることで、教員のデータ分析・活用力にかんする指導力を向上させる。

- ・ 2学年課題研究において昨年度より研究内容において「定量化と再現性」を求めてきたが、「再現性」を獲得するに至るまでの研究が全体の7%と少数である。

〈原因〉

- ・ 「再現性」を導き出すのに十分な、データサンプル数を得ていない。
- ・ 「定義づけ」の項目も低いことから、研究テーマから課題設定に至る過程において、研究内容の定義の絞り込みと検証内容の想定が充分でなく、抽象的な課題設定のまま研究活動が進んだことが原因として考えられる。

〈改善点〉

- ・ 実験や調査を行う期間を確保することが必要なため、理数探究基礎の単位数を現在の1単位から2単位への増単する
- ・ 研究テーマから課題設定に至る過程における指導法の改善。ゼミ担当の教員間で課題設定過程での生徒とのディスカッション方法の開発と共有などを行う必要がある。

II：各教科の本質を追求する深い学びと、文理の枠や教科の枠を超えた横断的で探究的な学びを教科の授業で実践するとともに、新たに開発する文理融合講座を通して異なる領域の知識や情報を統合させる学びの実践

- ・ 「文理融合」のイメージが生徒の中で共有されていないことが分かる。(③-8の①)

〔原因〕

生徒への「文理融合」「総合知」の定義についての説明不足であり、「文理融合」を扱った授業が少ない←SSHトピックの実施数が少ない。

〔改善〕

生徒に対する「文理融合」「総合知」の定義の説明とこれらを扱った授業の実施数を増加させる。

- ・SSHトピックの実施数が少なく、科目が理科に偏っている。

〔原因〕

教員向けアンケート(③-13)のB-4の肯定的回答が40%を満たしていないことから、SSHトピックの趣旨が共有されていないことが原因の一つと考えられる。

〔改善〕

SSHトピックの趣旨を丁寧に説明し、生徒のアンケートなど実施し、教育的効果を客観的に判断できる根拠を示し、教員の意識を高める。

- ・教員向けアンケート(③-13)のC5、C6、C10、C12の肯定的回答が50%を下回っている。

〔原因〕

A10、A11、A12の肯定的回答が40%以下であることから、教員間での「5つの力」の内容及び定義の共有が充分になされていない。

〔改善〕

研修会で、5つの力についてより詳細に説明を行うとともに、SSH連絡協議会を活用し、各教科における「5つの力」のモデル案を作成する。また、生徒による授業評価において独自の質問項目に「5つの力」に関する項目を入れ、データを収集し分析する。

Ⅲ：大学・研究機関・地元自治体との連携を活用して科学分野の実践的、体験的な講座や講演会、サイエンスカフェの実施、カマクラブによる高度な探究活動等や、英語を活用した国際的な体験の機会を設ける。

- ・カマクラブの実施回数と参加人数を増加させる工夫を講じる。
- ・生徒意識調査アンケートにて「将来、科学技術分野で活躍できる人になりたいと思っている。」の肯定的回答が1学年28%、2学年40%と半数に達していない。(③-12 設問18)

〔原因〕

1学年と2学年の肯定的回答に差があることから、研究活動に取り組んでいるか否かが差を生んでいると考える。

〔改善策〕

理科や数学、情報の授業において学習した知識や技能を使って、色々な分析や実験をしてみたいと思っている。」の肯定的回答が1学年51%、2学年55%とある(③-12設問16)ことから、2学年の課題研究の充実だけではなく、1学年の時期から研究活動に取り組ませることが必要。

Ⅳ：その他

- ・教員向けアンケートの「SSH業務の負担は特定の人に偏りやすいと感じる」の回答が80%を超えている(③-13のC3)。

〔原因〕

理数探究基礎や課題研究などの授業にかかわる教材開発などを主担当である「学習企画グループ」の教員のみが行っていることが原因であると考えられる。

〔改善策〕

SSH連絡協議会を活性化し、教材開発などを他グループの教員にも協力してもらう手段を講じるなど、グループ外のより多くの教員がSSHの授業開発や教材開発に携われる体制と組織風土を構築する。

- ・本校SSH事業の普及活動として学校ホームページの活用や鎌倉市の中学校との連携を進め、普及活動の活性化を図る。

③-1 令和7年度 教育課程表(令和7年度入学生)

入学年度			令和7年度							
教科	科目	標準単位	1年	2年	3 年					小計
					文系	理系Ⅰ	理系Ⅱ	理系Ⅲ	自由選択	
	クラス数	8	8	8						
国語	現代の国語	(2)	2							2
	言語文化	(2)	2							2
	論理国語	(4)		2	2	2	2			4
	文学国語	(4)			3					0,3
	古典探究	(4)		2	2	2	2	2		4
地理歴史	地理総合	(2)		2						2
	地理探究	(3)							④	0,4
	歴史総合	(2)	2							2
	日本史探究	(3)		②	④					0,2,6
	世界史探究	(3)		②	④					0,2,6
	世界史研究	*				②*				0,2
	日本史研究	*				②*				0,2
公民	公共	(2)		2						2
	倫理	(2)							④	0,4
	政治・経済	(2)							④	0,4
数 学	数 学Ⅰ	(3)	3							3
	数 学Ⅱ	(4)		4						4
	数 学Ⅲ	(3)				5	5			0,5
	数 学A	(2)	2							2
	数 学B	(2)		1		1	1	1		1,2
	数 学C	(2)		1		1	1	1		1,2
	数学総合	*			④					0,4
	数学研究	*						2		0,2
理 科	物理基礎	(2)	2	②						2,4
	物 理	(4)				4				0,4
	化学基礎	(2)	2							2
	化 学	(4)		3		2	2	3		3,5,6
	生物基礎	(2)	2	②						2,4
	生 物	(4)					4	4		0,4
	理科研究	*							②	0,2
保健体育	体 育	(7)～(8)	3	2	3	3	3	3		8
	保 健	(2)	1	1						2
芸 術	音 楽Ⅰ	(2)	②							0,2
	音 楽Ⅱ	(2)							②	0,2
	美 術Ⅰ	(2)	②							0,2
	美 術Ⅱ	(2)							②	0,2
外国語	英語コミュニケーションⅠ	(3)	3							3
	英語コミュニケーションⅡ	(4)		4						4
	英語コミュニケーションⅢ	(4)			4	4	4	4		4
	論理・表現Ⅰ	(2)	2							2
	論理・表現Ⅱ	(2)		2						2
	論理・表現Ⅲ	(2)			2	2	2	2		2
	英語実践	*			②*					0,2
家庭	家庭基礎	(2)	2							2
情報	情報Ⅰ	(2)		1	1	1	1	1		2
理数	理数探究基礎	(1)	2							2
	理数探究	(2)～(5)		1	1	1	1	1		2
(専門)音楽	演奏研究	(2)～(6)			④					0,4
(専門)美術	素描	(2)～(6)			④					0,4
学校外活動☆	校外講座	*	0～6	0～6		0～6				0～6
	ボランティア活動	*	0～3	0～3		0～3				0～3
	就業体験活動	*	0～3	0～3		0～3				0～3
小計			32～38	32～38	26～32	28～34	28～34	26～32	0, 2, 4, 6	90～102
総合的な探究の時間 (3)～(6)			▲	▲	▲	▲	▲	▲		
合計			32～38	32～38	26～38					90～102
ホームルーム活動			1	1	1					3
総 計			33～39	33～39	27～39					93～105
備考:	※○は3年自由選択科目以外では線で結ばれている中から1科目選択する。ただし、3年文系必修選択科目の世界史研究と日本史研究は、必ず英語実践と併せて選択するものとする。 ※3年自由選択科目では原則として4単位科目の中から1科目、2単位科目の中から1科目選択することができる。 ※*は学校設定科目である。 ※自由選択の帯の科目は、文系・理系Ⅰ～Ⅲの別にかかわらず選択できる。 ※総合的な探究の時間▲は理数探究基礎2単位、理数探究2単位(2年1単位、3年1単位)で代替する。 ※学校外活動の卒業までの認定単位数の上限は校外講座6単位、ボランティア活動3単位、就業体験活動3単位とし、合計の上限は6単位とする。認定された単位は卒業までに必要な単位に含めることができる。 ※教育課程の変更もありうる。									

③-1 令和6年度 教育課程表(令和5・6年度入学生)

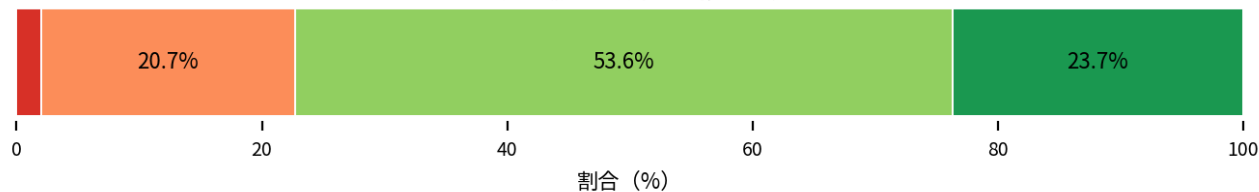
入学年度			令和5・6年度								
教科	科目	標準単位	1年	2年		3 年					小計
				文系	理系	文系	理系Ⅰ	理系Ⅱ	理系Ⅲ	自由選択	
	クラス数	8	8		8						
国語	現代の国語 (2)	2									2
	言語文化 (2)	2									2
	論理国語 (4)		2	2	2	2	2	2			4
	文学国語 (4)				3						0,3
	国語表現 (4)								④		0,4
	古典探究 (4)		2	2	2	2	2	2			4
地理歴史	地理総合 (2)		2	2							2
	地理探究 (3)				④				④		0,4
	歴史総合 (2)	2									2
	日本史探究 (3)		④						④		0,4
	世界史探究 (3)		④						④		0,4
	世界史研究 *					④					0,4
公民	公共 (2)	2				②					2,4
	倫理 (2)					②				②	0,2
	政治・経済 (2)		②			②				②	0,2,4
数 学	数 学Ⅰ (3)	3									3
	数 学Ⅱ (4)		4	4							4
	数 学Ⅲ (3)					5	5				0,5
	数 学 A (2)	2									2
	数 学 B (2)		1	1		1	1	1			1,2
	数 学 C (2)		1	1		1	1	1			1,2
	数学総合 *				④				④		0,4
	数学研究 *							2			0,2
理 科	物理基礎 (2)		2	2	②						2,4
	物 理 (4)					6					0,6
	化学基礎 (2)	2							②		2,4
	化 学 (4)			4		2	2	3			0,6,7
	生物基礎 (2)	2							②		2,4
生 物 (4)				②			4	4			0,6
	保 健 体 育	体 育 (7)～(8)	3	3	3	2	2	2	2		8
芸 術	保 健 (2)	1	1	1							2
	音 楽Ⅰ (2)	②		②							0,2
	音 楽Ⅱ (2)			②							0,2
	音 楽Ⅲ (2)								②		0,2
	美 術Ⅰ (2)	②									0,2
	美 術Ⅱ (2)			②							0,2
外国語	美 術Ⅲ (2)								②		0,2
	英語コミュニケーションⅠ (3)	3									3
	英語コミュニケーションⅡ (4)		4	4							4
	英語コミュニケーションⅢ (4)				4	4	4	4			4
	論理・表現Ⅰ (2)	2									2
	論理・表現Ⅱ (2)		2	2							2
	論理・表現Ⅲ (2)				2	2	2	2			2
	英語研究 *		②								0,2
英語実践 *								②		0,2	
家庭	家庭基礎 (2)	2									2
情報	情報Ⅰ (2)	1	1	1							2
理数	理数探究基礎 (1)	1									1
(専門)音楽	演奏研究 (2)～(6)				④						0,4
(専門)美術	素描 (2)～(6)				④						0,4
学校外活動☆	校外講座 *	0～6	0～6			0～6					0～6
	ボランティア活動 *	0～3	0～3			0～3					0～3
	就業体験活動 *	0～3	0～3			0～3					0～3
小計		32～38	31～37		23～29	27～33	25～31	23～29	0, 2, 4, 6	86～100	
総合的な探究の時間 (3)～(6)			1		1					2	
合計		32～38	32～38		24～38					88～102	
ホームルーム活動		1	1		1					3	
総 計		33～39	33～39		25～39					91～105	
備考:	※○は3年自由選択科目以外ではその中から1科目選択。3年自由選択科目では原則として4単位科目の中から1科目、2単位科目の中から1科目選択することができる。 ※理系において生物を選択する場合、2、3年次の分割履修となり、併せて6単位履修する。 ※3年文系選択科目の倫理と政治・経済は、必ず公共と併せて選択するものとする。 ※*は学校設定科目である。 ※自由選択の帯の科目は、文系・理系Ⅰ～Ⅲの別にかかわらず選択できる。 ※自由選択の帯の世界史探究、日本史探究は、2年次にそれらの科目を履修していない場合のみ選択できる。 ※総合的な探究の時間3単位のうち、1単位分は、理数探究基礎1単位で代替する。 ※学校外活動の卒業までの認定単位数の上限は校外講座6単位、ボランティア活動3単位、就業体験活動3単位とし、合計の上限は6単位とする。認定された単位は卒業までに必要な単位に含めることができる。 ※教育課程の変更もありうる。										

③-2 理数探究基礎 生徒アンケート 集計結果

実施日：令和7年年9月／ 総回答数：304

【クリティカルシンキングに関して】

CT1 主張と根拠を区別して読める／示せる



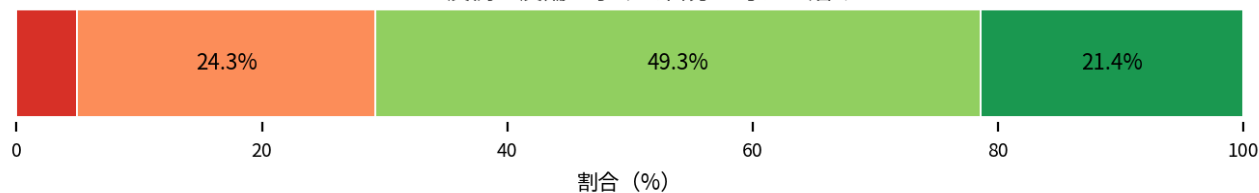
色：まだできていない=赤 ときどきできる=橙 だいたいできる=黄緑 つねにできる=緑

CT2 データや資料の限界（抜け・偏り）に気付ける



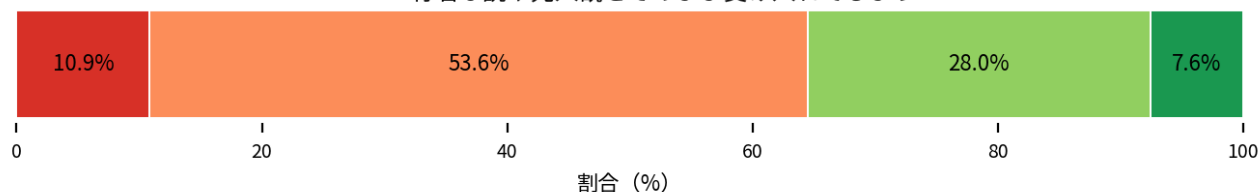
色：まだできていない=赤 ときどきできる=橙 だいたいできる=黄緑 つねにできる=緑

CT3 反例・反論を挙げて自分の考えを磨ける



色：まだできていない=赤 ときどきできる=橙 だいたいできる=黄緑 つねにできる=緑

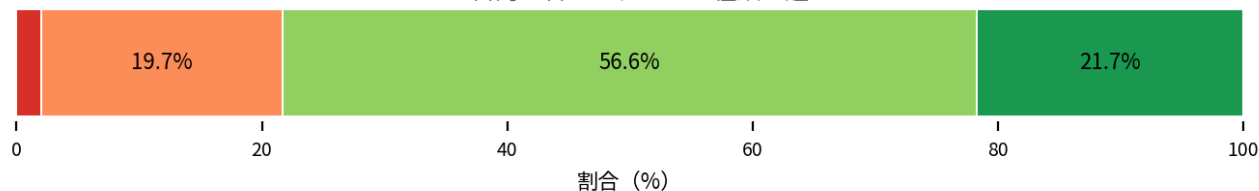
CT4 有名な説や先入観をそのまま受け入れてしまう



色：まだできていない=赤 ときどきできる=橙 だいたいできる=黄緑 つねにできる=緑

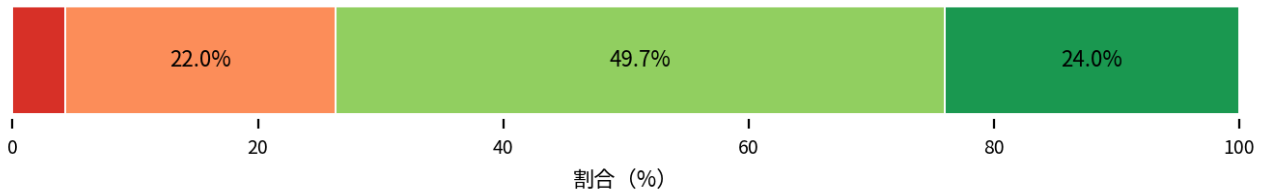
【データ分析・活用力に関して】

DA1 目的に合ったグラフの種類を選ぶ



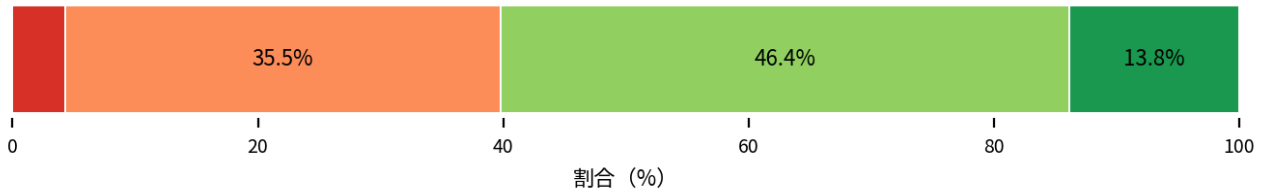
色：まだできていない=赤 ときどきできる=橙 だいたいできる=黄緑 つねにできる=緑

DA2 平均・中央値・分散などを計算できる



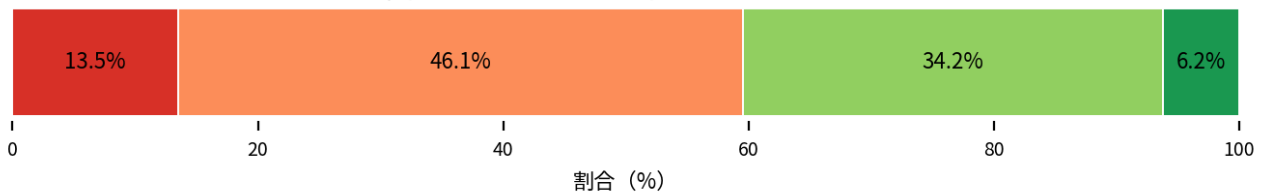
色：まだできていない=赤 ときどきできる=橙 だいたいできる=黄緑 つねにできる=緑

DA3 サンプル抽出の偏りに気づける



色：まだできていない=赤 ときどきできる=橙 だいたいできる=黄緑 つねにできる=緑

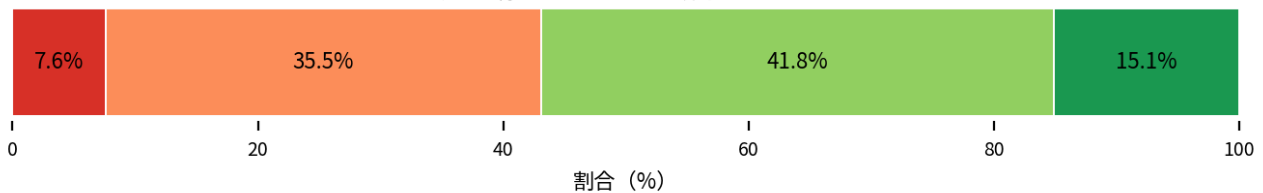
DA4 相関が高ければ必ず因果関係があると考えてしまう



色：まだできていない=赤 ときどきできる=橙 だいたいできる=黄緑 つねにできる=緑

【課題発見力に関して】

PF1 身近な観察・データから疑問を言語化できる



色：まだできていない=赤 ときどきできる=橙 だいたいできる=黄緑 つねにできる=緑

PF2 先行研究の要点をまとめることができる



色：まだできていない=赤 ときどきできる=橙 だいたいできる=黄緑 つねにできる=緑

PF3 課題を自分自身で研究できるようなものに絞り込める



色：まだできていない=赤 ときどきできる=橙 だいたいできる=黄緑 つねにできる=緑

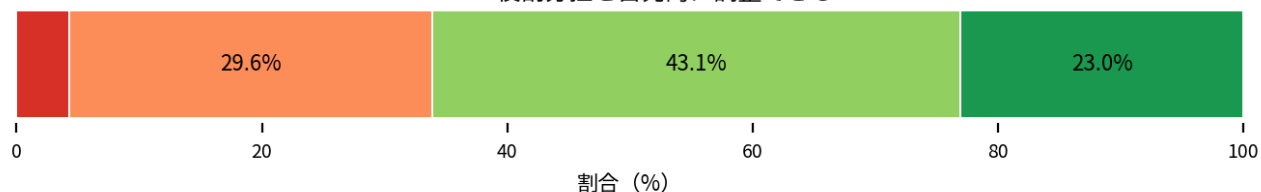
PF4 興味関心が曖昧でテーマを他人任せにしてしまう



色：まだできていない=赤 ときどきできる=橙 だいたいできる=黄緑 つねにできる=緑

【協働力に関して】

CO1 役割分担を自発的に調整できる



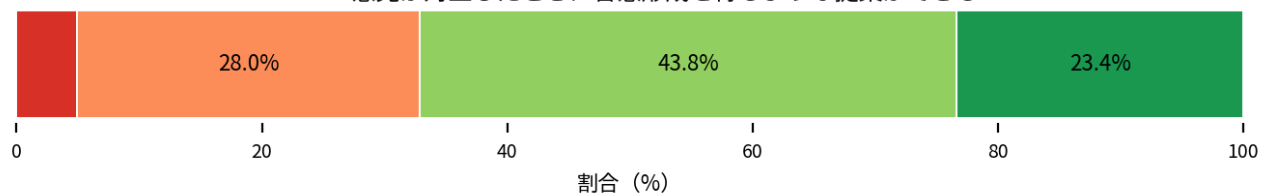
色：まだできていない=赤 ときどきできる=橙 だいたいできる=黄緑 つねにできる=緑

CO2 相手の意見を要約して確認してから自分の意見を述べる



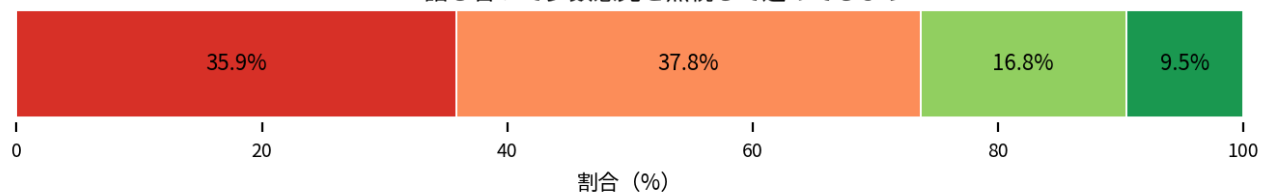
色：まだできていない=赤 ときどきできる=橙 だいたいできる=黄緑 つねにできる=緑

CO3 意見が対立したときに合意形成を得るような提案ができる



色：まだできていない=赤 ときどきできる=橙 だいたいできる=黄緑 つねにできる=緑

CO4 話し合いで少数意見を無視して進めてしまう



色：まだできていない=赤 ときどきできる=橙 だいたいできる=黄緑 つねにできる=緑

【統合的思考力に関して】

IN1 複数の異なる教科の考え方を併用して説明できる



色：まだできていない=赤 ときどきできる=橙 だいたいできる=黄緑 つねにできる=緑

IN2 探究サイクル（仮説→検証→考察・まとめ→新たな仮説）を説明できる



色：まだできていない=赤 ときどきできる=橙 だいたいできる=黄緑 つねにできる=緑

【その他】

IN3 倫理・安全・社会的影響を含めて妥当性を判断できる



色：まだできていない=赤 ときどきできる=橙 だいたいできる=黄緑 つねにできる=緑

IN4 一つの見方だけで結論づけてしまう



色：まだできていない=赤 ときどきできる=橙 だいたいできる=黄緑 つねにできる=緑

③-3 令和7年度 課題研究計画 一覧

(令和8年2月アンケート実施)

	分野	カテゴリー	テーマ	内容
1	自然科学	物質・材料	プリンの固さについて	プリンの固さは材料の割合や加熱時間でどう変わるか
2	自然科学	物理・工学	音の調子、リラックス、緊張、心拍数	音の周波数及び長さによって、人の心拍数はどのような変化を生じるか。
3	自然科学	数理・情報	ヒット音楽	ヒットしている音楽、曲にはどのような共通点があるのか
4	自然科学	物理・工学	コード進行	同じメロディーでコード進行を変えると印象はどう変わる。
5	自然科学	生命・生物	光の強度や色が植物の成長に与える影響	光の強度や色を変えると植物の成長はどう変わる？
6	自然科学	物理・工学	錯視	角度を変えると見え方はどう変わる
7	自然科学	地球・環境	植物の水質浄化について	植物の水質を浄化する力を最大にする条件は何か？
8	自然科学	物質・材料	チークが1番綺麗にのこる方法を調べる	チークと下地の組み合わせでどのような違いがでるか
9	自然科学	物理・工学	忍者の「水蜘蛛」はどのくらいの大きさなら人は浮くのか	忍者の水蜘蛛の水に触れている表面積を変えると浮いている時間、浮力はどう変わる？
10	自然科学	物質・材料	ハンドクリーム	水と油、乳化剤でつくるハンドクリームに保湿剤を加えた時の水分持続量の変化はどうなるか。また、保湿剤は食品系と化学物質系で差はあるのか。
11	自然科学	生命・生物	上腕二頭筋 重量 回数	高重量低回数と低重量高回数で腕の筋肥大の効率はどう違うか
12	自然科学	物理・工学	建物の耐久性	建物の材料などで耐久性は変わるのか
13	自然科学	数理・情報	音楽、曲	曲の種類と集中力には関係があるのか
14	自然科学	物理・工学	部屋の構造と響き	壁の材質を変えると音の響きはどうか変わる？
15	自然科学	数理・情報	江ノ電の理想的な運行間隔	遅延時間と混雑率が低く、利益が高い運行間隔を調べる
16	自然科学	物理・工学	言語、テンポ、楽器、曲想、ジャンルなどが異なる様々な音楽	音楽によってダンスの動きはどのように変化するか
17	自然科学	物質・材料	ヘアカラーの色持ち	ヘアカラーの持ちをを特に持続させるカラー剤の成分
18	自然科学	数理・情報	MVにおける視覚要素と視聴者行動指標の関係	カットの切り替えが速いMVは、行動指標が高くなる傾向があるのか？
19	自然科学	数理・情報	言葉	ヒット曲に共通点はあるのか？
20	自然科学	物理・工学	ハンドボールのシュートの球速	助走歩数やシュートフォームを変えると球速はどう変わる？
21	自然科学	生命・生物	様々な水中にいる微生物の環境による変化	河川水と海水において時間経過に伴う微生物量の変化は水質指標とどのような関係を示すか
22	自然科学	数理・情報	バレーボールのサーブ	理想的な軌道を描くサーブのフォーム乗った条件
23	自然科学	数理・情報	音楽と映像	人気な「音楽と映像」と人気でない「音楽と映像」には、どのような違いがあるのか。
24	自然科学	物理・工学	バスケットボールにおけるシュート角度とシュート率の関係性	シュート角度がシュート率にどんな影響を与えるのか
25	社会科学	教育・心理	思い込み	人間はモノの価値をはかるときにどんな要素に重きをおくのか？
26	社会科学	教育・心理	心理的ストレスと物理的ストレスが学習能力に及ぼす影響	ストレスがない、心理的ストレスがある、物理的ストレスがある、この3パターンでテストの結果がどう違うか。
27	社会科学	教育・心理	教育×ICT	紙とタブレットなどの媒体の違いによって、認知能力や学習効率にはどのような違いが生まれるか。
28	社会科学	教育・心理	集中力を高めるのに最適な休憩時間	集中力を最も高める休憩時間は何分なのか
29	社会科学	教育・心理	やる気が出る瞬間はどんな時か。	やる気を最大限にする条件は何か。
30	社会科学	教育・心理	行動心理を用いた教育への問題解決	伝え方によって復習してくれる生徒数を増やすことはできるのか
31	社会科学	教育・心理	校則は生徒の行動にどう影響するか	校則を変えると生徒の行動は変化するか
32	人文科学	哲学・倫理	MBTIの性格タイプ（E/I・T/F）と第一印象が恋愛的好意に与える影響	MBTIの外向型（E）・内向型（I）、および思考型（T）・感情型（F）の違いによって、第一印象が恋愛的好意に与える影響は異なるか
33	人文科学	芸術・デザイン	各年代でヒットした曲の特徴や法則性、それらがどのくらい売れたのか	曲の長さは昔と最近でどれだけ違うか、売れる曲には関係があるのか

③-4 生徒による授業評価アンケート

11 月実施

回答項目

評価 1：ほとんどあてはまらない 評価 2：あまりあてはまらない

評価 3：ほぼ当てはまる 評価 4：かなり当てはまる

授業の在り方について	1	毎時間の授業や単元（内容のまとまり）のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある	評価 4	103	49%
			評価 3	92	44%
			評価 2	15	7%
			評価 1		0%
	2	単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある	評価 4	96	46%
			評価 3	99	47%
			評価 2	15	7%
			評価 1		0%
	3	単元（内容のまとまり）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある	評価 4	116	55%
			評価 3	85	40%
			評価 2	9	4%
			評価 1		0%
学習の状況について	4	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた	評価 4	90	43%
			評価 3	102	49%
			評価 2	17	8%
			評価 1	1	0%
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた	評価 4	102	49%
			評価 3	94	45%
			評価 2	13	6%
			評価 1	1	0%
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた	評価 4	99	47%
			評価 3	99	47%
			評価 2	11	5%
			評価 1	1	0%
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた	評価 4	98	47%
			評価 3	96	46%
			評価 2	15	7%
			評価 1	1	0%

③-5 令和7年度 2学年課題研究 ポスター評価ルーブリック表・研究テーマ・評価一覧（集計）

ポスター評価ルーブリック

評価項目 【観点】	評価材料	S (10点)	A (8点)	B (5点)	C (3点)
①ポスター作成力 ＜表現力・伝達力＞ 【知】	ポスター	(Aの内容+) ・ポスター全体の統一感などにこだわって仕上げている。 【例】アクセントカラーやフォントの種類、グループ化等、資料『情報デザインを意識したポスター作成入門』を参考にしている。	(Bの内容+) ・先行研究等を引用している場合、出典を記載しており、研究内容がポスターのみで把握できる構成になっている。 (問題→方法→結果→考察→結論→展望)	・フォントサイズが適切であり、図表や写真を適切に配置し、情報が整理されている。 (文字のみのポスターになっていない)	・Bの内容を満たしていない。
②データ分析 ・活用力 ＜データの質と処理能力＞ 【知】	ポスター	(Aの内容+) ・統計的手法(t検定、相関、分散分析等)を用いて、結果が有意であることを示している。	(Bの内容+) ・作成したグラフや表から傾向を読み取って示している。	・研究活動で得た数値データを用いてグラフや表を1つ以上作成している。	・Bの内容を満たしていない。
③クリティカルシンキング ＜考察の客観性と論理性＞ 【思】	ポスター	(Aの内容+) ・得られた結果を客観視し、「研究の限界点(サンプルの偏りや誤差要因等)」や「検証しきれなかった点」について示している。	(Bの内容+) ・データの妥当性が確保できるサンプル数を検討し、そのサンプル数を設定した根拠を述べている。	・得られた結果(事実)に基づき、仮説に対する結論(または解決策)を矛盾なく述べている。 (結果と無関係な感想になっていない)	・Bの内容を満たしていない。
④統合的思考力 ＜先行研究との接続＞ 【思】	ポスター	(Aの内容+) ・文献で得た知見を、文理それぞれの視点から現在の研究に関連付けて示している。または研究と実社会との往還を行っている。	(Bの内容+) ・複数の文献で得た知見を現在の研究に関連付けて示している。	・一次情報としての文献を示し、そこで得た知見を述べている。 (Wikipedia、SNS、まとめサイトの情報はNG)	・Bの内容を満たしていない。
⑤課題発見力 ＜研究の意義と振り返り＞ 【主】	ポスター	(Aの内容+) ・研究全体を振り返り、残された課題や今後の展望(社会的意義や応用可能性、追加検証案など)を具体的に示している。	(Bの内容+) ・当初設定したテーマや課題に対し、どのような成果が得られたか(解決できたか)を明確に示している。	・自分たちで解決に向けて調査活動を行うことのできるテーマを設定している。	・Bの内容を満たしていない。
⑥協働力 ＜役割分担＞ 【主】	今回は評価しない				

評価ごと平均値

	①ポスター作成力	②データ分析・活用力	③クリティカルシンキング	④統合的思考力	⑤課題発見力
平均	6.79	6.92	5.28	5.74	6.66

①～⑤ 各評価値(10・8・5・3)の個数

	①ポスター作成力	②データ分析・活用力	③クリティカルシンキング	④統合的思考力	⑤課題発見力
10	6	8	2	1	3
8	39	40	6	22	42
5	33	23	69	51	29
3	2	6	3	6	5

研究テーマ一覧・各項目評価

	分類	研究テーマ	①	②	③	④	⑤
01	自然科学	卓球 質の高いレシーブをするには	10	10	10	10	8
02	自然科学	雨の日に服(靴)を濡らさない	8	10	5	5	8
03	自然科学	消波ブロックの形状による波の打ち消しの差異	5	8	5	5	8
04	自然科学	災害時に近くにあるもので発電してスマホを充電する					
05	自然科学	最もよく飛ぶ紙飛行機をつくるには	8	8	5	5	8
06	自然科学	空間ノイズキャンセリングの基礎的検討	5	8	5	5	5
07	自然科学	身近な製品は防錆剤として使えるのか	10	8	5	5	8
08	社会科学	アイスのパッケージと購買意欲の関係性	8	5	8	5	5
09	自然科学	NOramen NOlife	8	8	5	5	8
10	自然科学	「その色、いつまで続く？」染めた髪の色落ち度の化学的分析	10	10	5	5	8
11	自然科学	血色感を保つ	8	8	8	5	8
12	自然科学	鎌高のカビを調べる	8		5	5	8
13	自然科学	海岸沿いにおけるトンビのと気象との関係について	8	10	5	5	8
14	自然科学	香りと人の集中力の関係性について	5	8	5	5	8
15	自然科学	トンビの弱点を探せ！	5	5	5	3	3
16	自然科学	人間両利き化計画	5	8	5	5	8
17	自然科学	生理現象を目立たせなくしたい	8	8	5	8	8
18	自然科学	ストレッチをしたら球速は速くなるのか	5	3	5	5	5
19	自然科学	色の違いによって物の焼け方は変化するのか	8	8	5	8	8
20	自然科学	植物と音楽の生育に関する関係	8	8	5	8	8
21	自然科学	記憶方法について	5		5	5	5
22	自然科学	色と記憶の関係	8	8	5	5	5
23	自然科学	不気味の谷現象の真相に迫る！！	8	8	5	8	8
24	自然科学	手指に付着した細菌の性質と効果的な殺菌方法とその持続性	8	8	5	8	8
25	自然科学	リンゴの鮮度を保つ保存方法の比較	8	8	5	5	8
26	自然科学	嗅覚と味覚の関係性	8	10	5	8	5
27	自然科学	当てる光の色で野菜の味に変化はあるのか	5	5	5	5	5
28	自然科学	手の洗う頻度と手指の菌	8	5	5	8	8
29	自然科学	アリは色識別ができるのか	5	5	5	5	5
30	自然科学	地熱発電の効率のいい土の種類について					
31	自然科学	効率的な生分解性プラスチックの分解	8	8	5	8	5
32	自然科学	条件による暗順応の違い	8	10	10	8	8
33	自然科学	粘菌の経路選択における起伏が与える影響について	10	3	5	8	10
34	自然科学	豆苗の成長スピードはかわるのか	8	8	5	5	8
35	自然科学	反射神経	5	5	5	5	5
36	自然科学	海岸から得られる要素で天気を予測する	5	8	5	5	8
37	自然科学	宇宙天気図をつくろう	3	3	3	3	3
38	自然科学	夕焼けは予言できるのか	5	3	5	5	5
39	自然科学	土砂崩れ 土の保水性と土の摩擦力	8	5	5	8	8
40	自然科学	動画として違和感を感じる音・画質は何か	8	8	5	5	5
41	自然科学	環境と暗記力の関係性	5	5	5	5	5
42	人文科学	AI の授業は人間の授業に比べてより良いか？	5	5	5	5	5
43	自然科学	ブロック崩しゲームの視覚的効果を確かめる	5	8	5	5	5
44	自然科学	パイナルウォールのデメリット解決	8	5	5	8	5
45	自然科学	ハニカム構造による持続的な圧力に対する強度を持つ橋の構造	10	8	5	8	10
46	自然科学	反射神経の上げ方について	5	8	5	5	8
47	自然科学	パンチ測定	3	3	5	3	
48	自然科学	筋肉量と柔軟性の変化に伴う怪我の耐性	8	5	5	5	5

49	人文科学	プロが思う筋肉と鎌高生が思う美しい筋肉について	5	5	5	5	5
50	人文科学	色が私たちに与える影響	5	8	5	5	8
51	社会科学	疎外感を感じる要因	8	8	5	8	10
52	人文科学	世の中見た目が 10 割説!!ルッキズムから分かる恋愛観	8	8	5	8	5
53	人文科学	プラシーボ効果で集中力は高められるのか	8	8	5	8	5
54	人文科学	先生の視線がテストの点数に及ぼす影響	8	10	5	5	8
55	社会科学	たいせつな治安のお話。	5	5	3	5	5
56	人文科学	魅力あるポスターの条件	10	8	5	8	8
57	社会科学	江ノ電の攻略法	5	5	5	5	5
58	社会科学	褒められた時に好印象を持たれる返答はなにか。	5	5	5	5	5
59	社会科学	なぜ人々は悪口に魅了されるのか	8	5	5	3	3
60	社会科学	防災の関心度と正常性バイアスの関係	5	8	5	8	8
61	社会科学	きょうだい位置と性格の関係	5		5	5	8
62	社会科学	伊藤博文の当時の作品と現代の作品から人物像を比較する	5	8	5	8	8
63	社会科学	中国王朝の興亡					
64	人文科学	リップに使われている色から受ける印象を調べる	5	8	5	5	5
65	社会科学	特典による不人気商品の売上の変化	8	5	5	3	5
66	自然科学	荷物と共に快適な登下校へ、、、	5	8	5	5	5
67	自然科学	貧困地域でも手軽にできる水質濾過の方法は？	8	8	5	5	8
68	社会科学	グローバル化で世界は豊かになったのか	8	8	5	5	8
69	社会科学	言語におけるタイポグリセミア現象における認知負荷に関する研究	8	8	8	5	8
70	人文科学	ゲシュタルト崩壊の発生原因と状況について	8	5	8	5	8
71	社会科学	人の名前の傾向について	5	8	5	8	8
72	社会科学	コミュニケーションを円滑に行うために	5	5	5	5	5
73	自然科学	音と集中力の関係性について	5	5	8	5	5
74	自然科学	音楽を聞いて緊張を和らげたい	5	8	5	3	3
75	自然科学	暗記するのに効果的な音楽とは	8	8	5	5	8
76	社会科学	バズる曲とは何か	8	5	5	5	8
77	自然科学	漢字の色と記憶力の関係	8	8	5	8	8
78	社会科学	パッケージデザインと購買意欲の関係	8	10	8	8	8
79	社会科学	効果的な学習の方法	8	5	5	5	8
80	社会科学	授業の楽しさと身に付き方の関係について	5	5	5	5	5
81	自然科学	人による教育と AI に教育の差	5	3	3	5	3
82	自然科学	部屋の明るさと集中力の関係性	5	8	5	5	8
83	自然科学	グミの硬さで変わるのか	8	8	5	5	8

③-6 令和5年度(2023)・6年度(2024)・7年度(2025)課題研究比較表

■2025年度(78期生)課題研究		実数								
	班数	社会課題の解決	定量化	再現性	定義づけ	統計的処理	メンター配置	サイエンスツアー	校内選考会参加	外部発表参加
自然科学	55	13	50	4	10	10	6	4	8	5
社会科学	19	1	18	0	0	6	0	0	1	0
人文科学	9	0	9	0	0	2	0	0	0	0
計	83	14	77	4	10	18	6	4	9	5
■2025年度(78期生)課題研究		割合								
	班数	社会課題の解決	定量化	再現性	定義づけ	統計的処理	メンター配置	サイエンスツアー	校内選考会参加	外部発表参加
自然科学	66%	24%	91%	7%	18%	18%	11%	7%	15%	9%
社会科学	23%	5%	95%	0%	0%	32%	0%	0%	5%	0%
人文科学	11%	0%	100%	0%	0%	22%	0%	0%	0%	0%
全体	100%	17%	93%	5%	12%	22%	7%	5%	11%	6%

■2023年度(76期生)課題研究 全83班				
自然科学	社会科学	人文科学	その他	社会課題の解決
36	11	32	4	5
43%	13%	39%	5%	6%

■2024年度(77期生)課題研究 全79班			
自然科学	社会科学	人文科学	社会課題の解決
46	19	14	12
58%	24%	18%	15%

③-7 3 学年論文作成 ルーブリック評価表および観点別成績 集計表

評価	【主体的に学習に取り組む態度】	【思考判断表現】	【知識技能】
A	1500字以上の分量がある 適切な表現を使ってAbstractの内容を読み手に伝えている	仮説に対する検証方法または調査方法が妥当である 独自性または新規性のある研究である 考察に飛躍がなく、深く考えられている 今後の課題についての言及がある	表記ミスがほとんど見られない 写真や図には正しく図表番号の記載がある（3つ以上） 出典や引用のルールが守られている
B	Abstractに英文で100語程度の要約の記載がある A4で2枚以上1000文字以上の分量がある 提出期限までに提出できている	仮説についての記載がある 調査方法または検証方法についての記載がある 結果についての記載がある 図表データを用いて根拠を示している	「だ・である調」で記載されている 図表がある（1つ～2つ） 出展や引用の記載がある
C	Bの基準を1つでも満たしていない	Bの基準を1つでも満たしていない	Bの基準を1つでも満たしていない

対象件数（有効回答）：349 件

評価項目	平均値	3の獲得数	3の割合	2の獲得数	2の割合	1の獲得数	1の割合
主体的に学習に取り組む態度	2.742	289	82.8%	30	8.6%	30	8.6%
思考・判断・表現	2.155	72	20.6%	259	74.2%	18	5.2%
知識・技能	2.089	73	20.9%	234	67.0%	42	12.0%

各評価項目別 内訳（件数・割合）

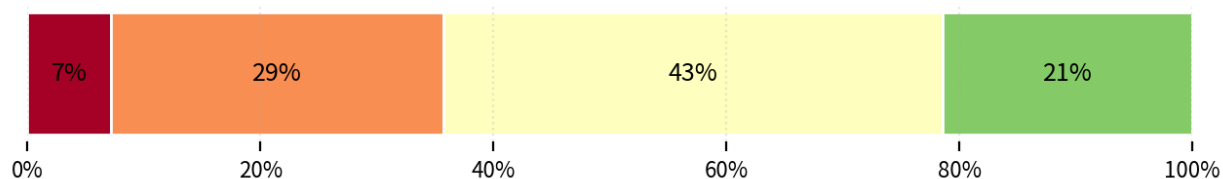
評価項目	評価	件数	割合
主体的に学習に取り組む態度	3	289	82.8%
	2	30	8.6%
	1	30	8.6%
思考・判断・表現	3	72	20.6%
	2	259	74.2%
	1	18	5.2%
知識・技能	3	73	20.9%
	2	234	67.0%
	1	42	12.0%

③-8 R7 文理融合講座アンケート 集計結果

実施日：11月29日

総回答数：14

① 「文理融合」の意味やイメージについてわかっている。〔講演会前〕

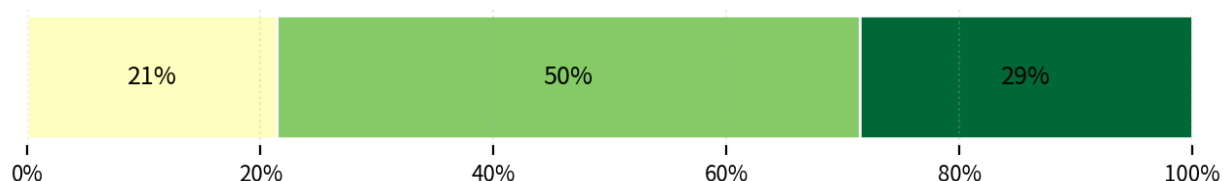


1：全く分からない / 2：あまり分からない / 3：どちらともいえない /

4：わかっている / 5：よくわかっている

区分	1	2	3	4	5
割合	7.1%	28.6%	42.9%	21.4%	0.0%

② 「文理融合」の意味やイメージについてわかっている。〔講演会后〕



1：全く分からない / 2：あまり分からない / 3：どちらともいえない /

4：わかっている / 5：よくわかっている

区分	1	2	3	4	5
割合	0.0%	0.0%	21.4%	50.0%	28.6%

③ データサイエンスに興味や関心がある。〔講演会前〕



1：全くない / 2：あまりない / 3：どちらともいえない / 4：ある / 5：非常にある

区分	1	2	3	4	5
割合	7.1%	14.3%	28.6%	42.9%	7.1%

④ データサイエンスに興味や関心がある。〔講演会后〕

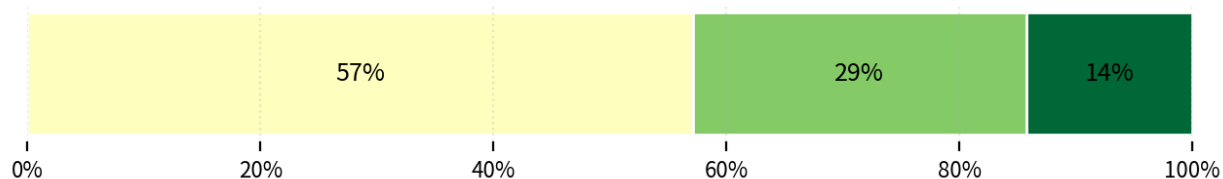


1：全くない / 2：あまりない / 3：どちらともいえない / 4：ある / 5：非常にある

区分	1	2	3	4	5
割合	0.0%	0.0%	0.0%	57.1%	42.9%

⑤ 実際に人の活動や行動についてデータを取り、その分析や検証等をやってみたいと思う。

〔講演会前〕



1：全く思わない/ 2：あまり思わない/ 3：どちらともいえない/ 4：思う/ 5：非常に思う

区分	1	2	3	4	5
割合	0.0%	0.0%	57.1%	28.6%	14.3%

⑥ 実際に人の活動や行動についてデータを取り、その分析や検証等をやってみたいと思う。

〔講演会後〕



1：全く思わない/ 2：あまり思わない/ 3：どちらともいえない/ 4：思う/ 5：非常に思う

区分	1	2	3	4	5
割合	0.0%	0.0%	0.0%	57.1%	42.9%

⑦ 本日の講演を通じて、クリティカルシンキングの重要性をどの程度意識するようになりましたか？



1：全く意識できない/ 2：あまり意識できない/ 3：どちらともいえない
4：意識するようになった/5：非常に意識するようになった

区分	1	2	3	4	5
割合	0.0%	0.0%	28.6%	64.3%	7.1%

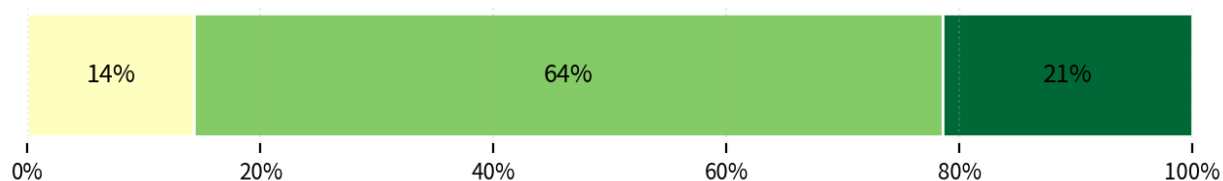
⑧ 本日の講演を通じて、データ分析・活用力の重要性をどの程度意識するようになりましたか？



1：全く意識できない/ 2：あまり意識できない/ 3：どちらともいえない
4：意識するようになった/5：非常に意識するようになった

区分	1	2	3	4	5
割合	0.0%	0.0%	14.3%	35.7%	50.0%

⑨ 本日の講演を通じて、課題を見つける力の重要性をどの程度意識するようになりましたか？

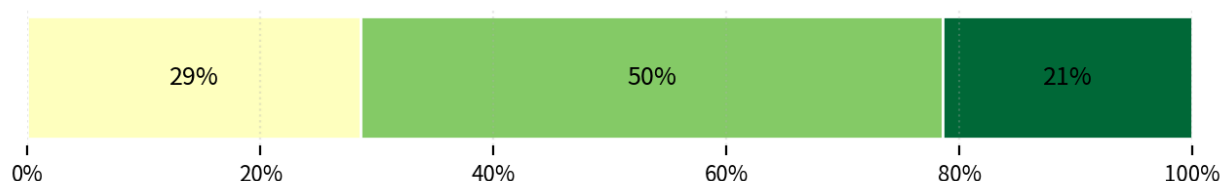


1：全く意識できない/ 2：あまり意識できない/ 3：どちらともいえない

4：意識するようになった/5：非常に意識するようになった

区分	1	2	3	4	5
割合	0.0%	0.0%	14.3%	64.3%	21.4%

⑩ 本日の講演を通じて、他社との協働力の重要性をどの程度意識するようになりましたか？



1：全く意識できない/ 2：あまり意識できない/ 3：どちらともいえない

4：意識するようになった/5：非常に意識するようになった

区分	1	2	3	4	5
割合	0.0%	0.0%	28.6%	50.0%	21.4%

⑪ 本日の講演を通じて、複数の視点を統合して考える力の重要性をどの程度意識するようになりましたか？



1：全く意識できない/ 2：あまり意識できない/ 3：どちらともいえない

4：意識するようになった/5：非常に意識するようになった

区分	1	2	3	4	5
割合	0.0%	0.0%	7.1%	35.7%	57.1%

⑫ 今後の探究活動や学習において、今日の講演内容を活かしたいと思いますか？



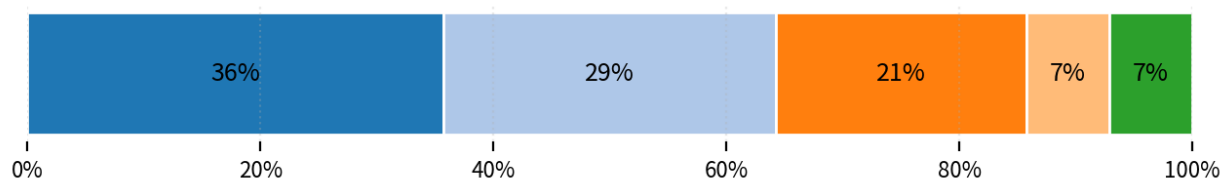
1：全く思わない/ 2：あまり思わない/ 3：どちらともいえない/ 4：やや思う / 5：強く思う

区分	1	2	3	4	5
割合	7.1%	0.0%	0.0%	42.9%	50.0%

⑬ 講義の中で特に印象に残った内容を教えてください。

正しい≠伝わる 伝える≠伝わる / ストレートのインコースとアウトコースの打球速度と角度の割合。 / 人間のイメージは少しずつれていてデータを取ることが大切 / 複数のデータをどう繋げて分析していけばいいのかわからなかったが、やり方が少しわかった様な感じがした。 / ストレートが1番ファールでカウントを稼ぎやすいってのが、有効的に使えそうだなと思った。 / 1つのことにフォーカスを置いても、様々なデータを取ることができ、実際に面白いデータが取れていて印象に残った。 / コース別や球種別の打球速度、角度の分析は実際の試合で十分に使えることだと思った。 / 一つのデータを様々な視点から見ることでいろんな情報を得ることができること。 / 部活やその他の生活などでデータを活用して生活等を豊かにできると思った / ストレートのデータだけでも球速やコース、被打率などたくさんのデータがありいろんな視点から調べることが大事だと思いました。 / コースによる打球角度 / ストレートのコース別、カウント別の傾向等 / データも大事だが直感に従うのも大事だということ。 / ストレートが1番ファールになる

⑭ 今後、文理融合講座を実施する際、どのような分野に興味ありますか？最も興味のあるものを一つ選んでください。



選択肢：ヒューマンサイエンス / 宇宙開発 / 観光学 / 社会学 / 野球

区分	ヒューマンサイエンス	宇宙開発	観光学	社会学	野球
割合	35.7%	28.6%	21.4%	7.1%	7.1%

③-9 令和7年度 SSHトピック 実施一覧表

科目	対象学年	内容	実施時期	1回あたりの時間	生徒の反応(具体的に)	授業の振り返り
情報Ⅰ	2年	バイアスとヒューリスティクス（思い込み）について	5月頃	30分以上	本授業はデータ分析の導入の授業として実施した。人間が誤った判断をするものとなる「思い込み」や「バイアス」の状態を授業を通じて体験すること、いわゆる批判的思考や、データなどの客観的な根拠をもとに考察することの重要性に気付けたとする感想が多数見られた。	今回の授業では生徒は多数のクイズに対峙しながら「思い込み」や「バイアス」の状態を体験していくこととなるが、クイズを複数問解いていくと「慣れ」が生まれ、最初から疑いをもつようになる。こうなると「思い込み」や「バイアス」は発生しにくくなるのがわかった。また、授業の中だからこそ「思い込み」や「バイアス」に気付くことができるが、日常でこれらに気付くことができるようになるかは懐疑的な部分である。
化学	2年	「エントロピー増大の法則」について「動的平衡としての生物多様性（著：福岡伸一）」と結び付けながら、化学的視点・哲学的視点から考察する。	9月上旬（例年なら夏休みに入る直前？）	15～20分	国語の文章の方をあまり覚えていない？様子だったが、大阪万博にも福岡伸一氏の手掛けた展示があるという切り口から映像等を見せると面白がっていた。	思いつきで土壇場の準備になってしまったので、じっくり資料を準備すれば1時間かけてもっと面白い活動ができたかな～と思っています。 ただ、文理融合として、タイムリーな万博の話題としては面白いもののできたのかなと思いました。
化学	2年	【平衡移動の観察と色の定量化】	10月	30分以上	K-ARPでS評価の基準に統計的手法を設定してあるので、新しい手法に興味を持っている様子であった。 また、感覚的な記述に留まりやすい色についても、このような方法で定量化できるという「感覚の定量化」という視点で良いプログラムになったのではないかなと思う。	K-ARPの指導をしていて、生徒が「検定とは？？？」という状況だったので、だったら授業で扱ってみて、ここからスキルを身につけた子が広めていってくれたら...と思って設定した。 実際、K-ARPの中間発表で一班ではあるものの、この授業を受けた生徒が所属する班で検定を行っていた班があったので、足場かけとしては機能したのではないかなと思う。
化学	2年	不斉炭素、身近な不斉	12月	10～15分		
化学	2年	芳香族化合物の置換基の配向性に関する電子効果	1月	15～20分	大学レベルの内容に興味を示すものも見られた。	
化学	2年	電子の非局在化、共鳴安定化	1月	10～15分		
地理探究	3年	消滅可能性自治体に該当しない自治体の違いは何か考える	6月第1～2週	20分～25分	神奈川県では葉山町と開成町が「自立持続可能」自治体となっており、1年生の理数探究基礎のRESASで扱った内容と繋げて捉えていた。北海道・東北で消滅可能性自治体が多く、沖縄で消滅可能性自治体が一つも無い＆出生率が高いことから、気候との相関性を指摘していた生徒もいた。	もう昨年のものにはなってしまったけれど、最新の有識者の見解を用いて日本の現状を把握させることができ、SSHトピックの第一歩にはなった。一人1台PCを使う機会にもなった。
化学	3年	合成高分子と歴史の関連	6月第2週	15～20分		
世界史研究	3年	中東問題の現状と国際政治	12月	10～15分		もう少し、時間を取って深い学習をしても良かった。

③-10 令和7年度カマクラブ実施内容

1. DNA 実験講座

日時	2025 年 7 月 29 日（火）
場所	神奈川県立鎌倉高等学校 生物実験室
講師	岩瀬 礼子 氏（帝京科学大学生命環境学部生命科学科 非常勤講師）
内容	DNA を酵素分解して生じる 4 種類のヌクレオチドを薄層クロマトグラフィーで分離・観察する実験を実施。あわせて、DNA の構成、細胞からの DNA 抽出、DNA を色素で光らせる観察などのテーマを実践的に学んだ。

2. 中外製薬横浜研究所見学会

日時	2025 年 8 月 5 日（火） 9:00-12:00
場所	中外製薬横浜研究所（横浜市戸塚区戸塚町 216）
講師	中外製薬社員（臨床開発・治験担当者等）
内容	製薬会社の研究所を見学し、臨床治験に関するワークショップに参加。会社紹介、研究所紹介映像の視聴、研究所での仕事内容・専門性の紹介、研究所見学、臨床治験ワークショップ（社員による指導）を通して、薬品開発の現状理解と科学的思考を深めた。

3. 有機化学講座（カマクラブ）

日時	2025 年 8 月 7 日（木） 9:30-12:30
場所	神奈川県立鎌倉高等学校 化学実験室
講師	山中 正浩 氏（立教大学理学部化学科 教授）
内容	有機化合物、不斉炭素、鏡像異性体について学ぶ講座。分子模型、基質受容体ドッキングモデルを用いた学習や、複数の化合物の匂いを嗅ぐ体験を通して、有機化学をより深く学んだ。

4. カマクラブ（8 月 7 日・8 日 実施枠／依頼文ベース）

日時	令和 7 年 8 月 7 日（木）・8 日（金） 9:00-12:20
場所	神奈川県立鎌倉高等学校（鎌倉市七里ガ浜 2-21-1）
講師	朝倉 史明 氏（神奈川大学化学生命学部 教授）※講師依頼文に基づく記載
内容	オワンクラゲの発光遺伝子を組み込む実験と遺伝子組み換えに関する講義を行った。全学年の希望者を対象に、通常授業では行いにくい科学分野の実践的・体験的な講座を実施した。

③-11 カマクラブ アンケート結果

1. 調査概要

- ・対象：カマクラブ(7/29、8/5、8/7・8)受講者アンケート
- ・回答数：38 件
- ・設問

- ① 今日の講座を受けて、実験の技能が向上した。
- ② 今日の講座を受けて、探究的な研究に関する考えが向上した。
- ③ 5つの力をどれほど意識できたか
 A クリティカルシンキング B データの分析・活用力 C 課題を見つける力
 D 他者と協働する力 E 複数の視点を統合して考える力(統合的思考力)
- ④ 今後の探究活動や学習に活かしたいと思う

2. 回答者

学年	人数	割合
1 学年	24	63. 2%
2 学年	9	23. 7%
3 学年	5	13. 2%

参加講座日	人数	割合
7/29 DNA 実験講座	8	21. 1%
8/5 中外製薬訪問	19	50. 0%
8/7・8 遺伝子組み換え実験	11	28. 9%

3. 設問別集計 (

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 (左=低評価 / 右=高評価)

① 今日の講座を受けて、実験の技能が向上した。

意味	人数	割合
全くそう思わない	6	15. 8%
あまりそう思わない	2	5. 3%
どちらともいえない	7	18. 4%
ややそう思う	18	47. 4%
強くそう思う	5	13. 2%

平均値：3. 37 (n=38)



② 今日の講座を受けて、探究的な研究に関する考えが向上した。

選択肢	意味	人数	割合
1	全くそう思わない	0	0. 0%
2	あまりそう思わない	1	2. 6%
3	どちらともいえない	3	7. 9%
4	ややそう思う	20	52. 6%
5	強くそう思う	14	36. 8%

平均値：4. 24 (n=38)



③5つの力をどれほど意識できたか

A クリティカルシンキング（批判的に考える力）

選択肢	意味	人数	割合
1	全く意識できない	0	0.0%
2	あまり意識できない	1	2.6%
3	どちらともいえない	15	39.5%
4	意識するようになった	16	42.1%
5	非常に意識するようになった	6	15.8%

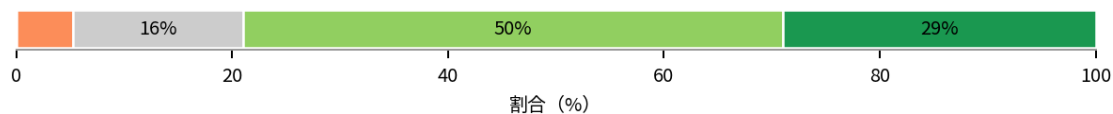
平均値：3.71（n=38）



B データの分析・活用力

選択肢	意味	人数	割合
1	全く意識できない	0	0.0%
2	あまり意識できない	2	5.3%
3	どちらともいえない	6	15.8%
4	意識するようになった	19	50.0%
5	非常に意識するようになった	11	28.9%

平均値：4.03（n=38）



C 課題を見つける力

選択肢	意味	人数	割合
1	全く意識できない	1	2.6%
2	あまり意識できない	0	0.0%
3	どちらともいえない	7	18.4%
4	意識するようになった	15	39.5%
5	非常に意識するようになった	15	39.5%

平均値：4.13（n=38）



D 他者と協働する力

選択肢	意味	人数	割合
1	全く意識できない	1	2.6%
2	あまり意識できない	1	2.6%
3	どちらともいえない	2	5.3%
4	意識するようになった	10	26.3%
5	非常に意識するようになった	24	63.2%

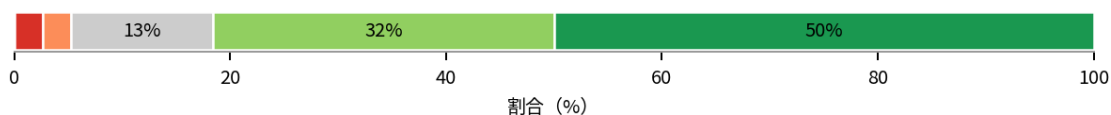
平均値：4.45（n=38）



E 複数の視点を統合して考える力

選択肢	意味	人数	割合
1	全く意識できない	1	2.6%
2	あまり意識できない	1	2.6%
3	どちらともいえない	5	13.2%
4	意識するようになった	12	31.6%
5	非常に意識するようになった	19	50.0%

平均値：4.24 (n=38)



④ 今後の探究活動や学習に活かしたいと思う

選択肢	意味	人数	割合
1	全く思わない	0	0.0%
2	あまり思わない	1	2.6%
3	どちらともいえない	0	0.0%
4	やや思う	16	42.1%
5	強く思う	21	55.3%

平均値：4.50 (n=38)



4. クロス分析（見やすい比較表）

ア 学年別 平均比較

学年	人数	設問①	設問②	設問③A	設問③B	設問③C	設問③D	設問③E	設問④
1	24	3.50	4.21	3.62	4.04	4.17	4.46	4.21	4.50
2	9	2.67	4.11	3.89	3.89	4.22	4.44	4.56	4.22
3	5	4.00	4.60	3.80	4.20	3.80	4.40	3.80	5.00

イ 講座別 平均比較

学年	人数	設問①	設問②	設問③A	設問③B	設問③C	設問③D	設問③E	設問④
7/29 DNA 実験講座	8	4.25	4.25	3.62	4.00	3.62	4.62	4.00	4.62
8/5 中外製薬訪問	19	2.63	4.26	4.00	3.95	4.47	4.53	4.53	4.37
8/7・8 遺伝子組み換え実験	11	4.00	4.18	3.27	4.18	3.91	4.18	3.91	4.64

③-12 令和7年度 鎌倉高校生徒意識調査アンケート

11月実施

対象生徒：1年289名 2年315名

設問1 学習では考察より、答えを覚える事を一番重視している。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	7%	40%	33%	19%
2学年	12%	36%	33%	19%
1,2学年合同	10%	38%	33%	19%
n	289	315	604	

設問2 学習において、初めて見る問題に対し、解説を見たり、誰かに説明を求めたりする前に、進んで試行錯誤して問題を解こうとしている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	25%	51%	22%	2%
2学年	20%	52%	24%	3%
1,2学年合同	23%	51%	23%	3%
n	289	315	604	

設問3 現在、世界や社会が抱えている様々な問題の中で解決したい具体的な課題や問題がある。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	13%	33%	30%	24%
2学年	15%	42%	31%	12%
1,2学年合同	14%	38%	31%	18%
n	289	315	604	

設問4 様々な面で、今の自分よりさらに上のレベルに成長したいと思っている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	67%	28%	4%	1%
2学年	67%	31%	2%	0%
1,2学年合同	67%	30%	3%	0%
n	289	315	604	

設問5 上のレベルに成長する方法は、誰かに教えてもらいたい、と思っている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	19%	52%	24%	5%
2学年	26%	56%	16%	2%
1,2学年合同	23%	54%	19%	3%
n	289	315	604	

設問6 何かに挑戦する際、つい「失敗しないように」と考えてしまう。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	42%	43%	9%	6%
2学年	40%	44%	12%	4%
1,2学年合同	41%	44%	11%	5%
n	289	315	604	

設問7 自分なりの答えを導くより、はじめから明確な答えがある問題や課題に取り組む方が好きだ。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	42%	39%	15%	5%
2学年	34%	44%	19%	3%
1,2学年合同	38%	42%	17%	4%
n	289	315	604	

設問8 学習において教えられた答えを疑わず、正しいと考えることが多い。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	27%	43%	26%	4%
2学年	23%	48%	23%	5%
1,2学年合同	25%	46%	25%	5%
n	289	315	604	

設問9 物事を違う角度から見たり、考えたりしようとしている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	21%	53%	24%	2%
2学年	23%	48%	26%	3%
1, 2学年合同	22%	50%	25%	2%
n	289	315	604	

設問10 学習、部活、行事において何か新しいアイデアを出し、実践している。

区分	アイデアがあり、実行している。	アイデアはあるが、実行したことはない。	アイデアはないが、人に言われたら実行する。	特に考えないし、新しいことはしない。
1学年	33%	25%	38%	4%
2学年	41%	26%	30%	3%
1, 2学年合同	37%	26%	34%	4%
n	289	315	604	

設問11 世界や社会、様々な現象が、どのような仕組みになっているのかを知りたいと思っている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	33%	44%	17%	7%
2学年	34%	45%	16%	5%
1, 2学年合同	33%	44%	17%	6%
n	289	315	604	

設問12 現在、研究してみたいテーマを持っている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	9%	18%	35%	38%
2学年	13%	29%	31%	27%
1, 2学年合同	11%	24%	33%	33%
n	289	315	604	

設問13 普段、世界や社会が抱えている問題や課題について調べることをしている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	9%	24%	33%	35%
2学年	12%	33%	33%	22%
1, 2学年合同	11%	28%	33%	28%
n	289	315	604	

設問14 理科や数学、情報の知識や技能を使って物事を分析し実証や検証をすることは重要な事であると考えている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	31%	52%	11%	6%
2学年	30%	50%	15%	5%
1, 2学年合同	31%	51%	13%	5%
n	289	315	604	

設問15 自分には、理科や数学、情報の知識や技能を活用して問題や課題を分析・解決する力がある。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	8%	26%	44%	22%
2学年	14%	28%	35%	23%
1, 2学年合同	11%	27%	39%	23%
n	289	315	604	

設問16 理科や数学、情報の授業において学習した知識や技能を使って、色々な分析や実験をしてみたいと思っている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	14%	37%	34%	15%
2学年	16%	39%	28%	17%
1, 2学年合同	15%	38%	31%	16%
n	289	315	604	

設問17 先端の科学研究分野について触れる機会がもっと欲しいと思っている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	16%	32%	29%	23%
2学年	17%	38%	29%	17%
1, 2学年合同	16%	35%	29%	20%
n	289	315	604	

設問18 将来、科学技術分野で活躍できる人になりたいと思っている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	8%	20%	33%	39%
2学年	15%	25%	25%	35%
1, 2学年合同	11%	23%	29%	37%
n	289	315	604	

設問19 学校や塾では扱わない、理科や数学の問題を解いてみたいと思っている。または、解いている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	7%	20%	31%	42%
2学年	13%	17%	30%	40%
1, 2学年合同	10%	19%	30%	41%
n	289	315	604	

設問20 興味のある科学分野について本や論文を読んだり、テレビの番組や動画などを見たりしている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	11%	21%	29%	39%
2学年	13%	23%	30%	34%
1, 2学年合同	12%	22%	29%	36%
n	289	315	604	

設問21 英語力を活用する機会を多く持ちたいと思っている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	37%	35%	17%	12%
2学年	30%	37%	21%	11%
1, 2学年合同	33%	36%	19%	12%
n	289	315	604	

設問22 海外の人と、ディベートやディスカッションすることは重要であると思っている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	44%	43%	6%	7%
2学年	38%	46%	12%	4%
1, 2学年合同	41%	44%	9%	5%
n	289	315	604	

設問23 より多くの異文化に触れ、理解することがこれからの時代重要であると考えている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	61%	31%	4%	3%
2学年	53%	41%	4%	2%
1, 2学年合同	57%	36%	4%	2%
n	289	315	604	

設問24 機会があれば、海外の人と一緒にプロジェクトをやってみたいと思っている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	26%	34%	24%	17%
2学年	23%	37%	26%	15%
1, 2学年合同	25%	35%	25%	16%
n	289	315	604	

設問25 将来、海外で活躍できる人になりたいと思っている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	29%	33%	19%	18%
2学年	26%	31%	25%	18%
1, 2学年合同	27%	32%	22%	18%
n	289	315	604	

設問26 普段、学校や塾以外で、英語で話したり、英語で書かれた情報に触れるなど、英語力を活用する機会を作っている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	14%	19%	31%	36%
2学年	14%	28%	27%	31%
1, 2学年合同	14%	24%	29%	33%
n	289	315	604	

設問27 興味のある海外の文化・社会・歴史・人物について本や論文を読んだり、テレビの番組や動画を

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	19%	30%	22%	28%
2学年	17%	28%	28%	27%
1, 2学年合同	18%	29%	25%	27%
n	289	315	604	

設問28 鎌倉市に愛着を感じている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	19%	39%	19%	23%
2学年	26%	41%	16%	17%
1, 2学年合同	23%	40%	17%	20%
n	289	315	604	

設問29 鎌倉市の未来は明るく、安泰であると感じている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	12%	37%	34%	18%
2学年	20%	45%	22%	12%
1, 2学年合同	16%	41%	28%	15%
n	289	315	604	

設問30 鎌倉市が抱えている課題や問題を解決したいと思っている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	10%	38%	29%	22%
2学年	13%	34%	30%	24%
1, 2学年合同	11%	36%	29%	23%
n	289	315	604	

設問31 現在、鎌倉市の発展に関わる活動に取り組んでいる。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	6%	11%	20%	62%
2学年	7%	9%	18%	67%
1, 2学年合同	6%	10%	19%	65%
n	289	315	604	

設問32 普段、人と何かのテーマについて議論することがある。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	21%	39%	26%	15%
2学年	23%	40%	23%	14%
1, 2学年合同	22%	39%	25%	14%
n	289	315	604	

設問33 他の人から自分と違う意見を聞くのは、有意義だと思っている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	61%	35%	2%	1%
2学年	55%	40%	3%	1%
1, 2学年合同	58%	38%	3%	1%
n	289	315	604	

38

設問34 自分の意見や考えを論理的に分かりやすく他人に伝えるのが得意である。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	11%	31%	39%	18%
2学年	17%	31%	35%	17%
1, 2学年合同	14%	31%	37%	17%
n	289	315	604	

設問35 仲間と協働・連携して何かを成し遂げる活動が好きである。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	47%	41%	8%	4%
2学年	39%	47%	10%	4%
1, 2学年合同	43%	44%	9%	4%
n	289	315	604	

設問36 普段、学習した内容を現在の世界や社会が抱える問題とつなげて考えようとしている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	13%	39%	33%	15%
2学年	16%	41%	32%	11%
1, 2学年合同	15%	40%	33%	13%
n	289	315	604	

設問37 普段、ある教科で学んだ知識や考え方を他の教科に活かせないか、と考えている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	18%	43%	27%	12%
2学年	18%	43%	28%	11%
1, 2学年合同	18%	43%	27%	11%
n	289	315	604	

設問38 幅広い知識を持った人になりたいと思う。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	72%	25%	2%	1%
2学年	61%	34%	4%	1%
1, 2学年合同	66%	30%	3%	1%
n	289	315	604	

設問39 普段、色々な場面で得た知識や技能を何かに応用しようと考えている。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	25%	43%	26%	7%
2学年	25%	50%	21%	4%
1, 2学年合同	25%	46%	23%	5%
n	289	315	604	

設問40 普段から文系・理系などの分野を問わず、多様な分野の本や論文を読んでいる。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	8%	16%	28%	48%
2学年	10%	21%	27%	42%
1, 2学年合同	9%	19%	28%	45%
n	289	315	604	

設問41 この1年間のあいだに英語の授業以外で英会話をした。

区分	そうである	ややそうである	ややそうではない	そうではない
1学年	33%	23%	11%	33%
2学年	37%	23%	15%	25%
1, 2学年合同	35%	23%	13%	29%
n	289	315	604	

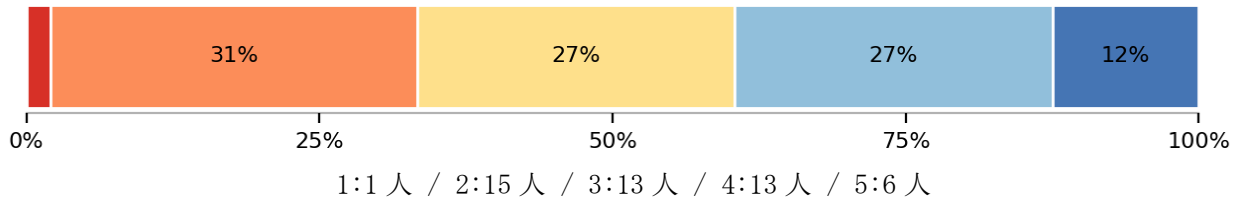
③-13 令和7年度 鎌倉高校 SSH 教員アンケート 結果

実施日：令和8年2月
回答数：48人

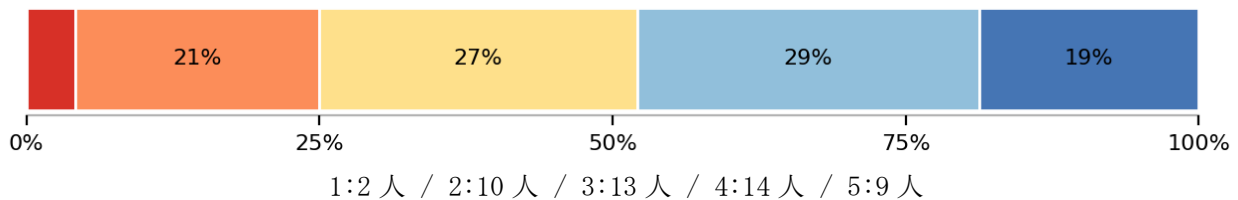
- 1=全くそう思わない／全くできていない
- 2=あまりそう思わない／あまりできていない
- 3=どちらともいえない
- 4=ややそう思う／ややできている
- 5=とてもそう思う／とてもできている

【A 鎌高 SSH への関心・理解】

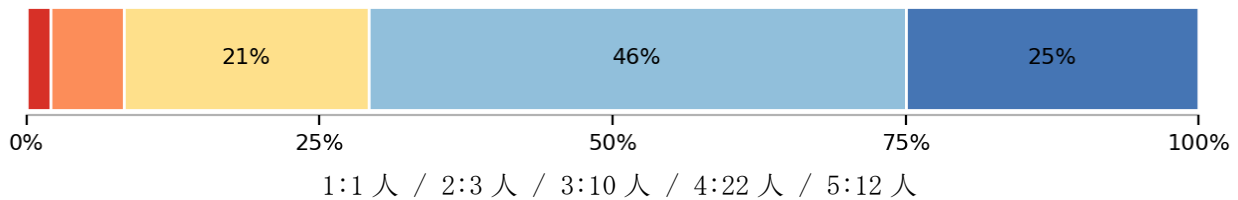
A1. [鎌高 SSH のねらい（目的）を自分の言葉で説明できる]



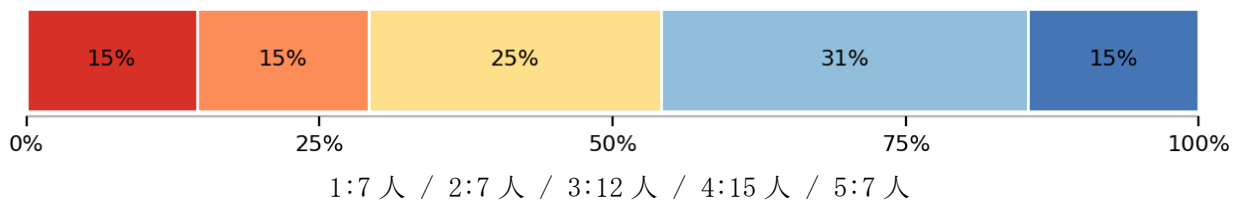
A2. [SSH が学校全体の教育目標・方針とどうつながるか理解している]



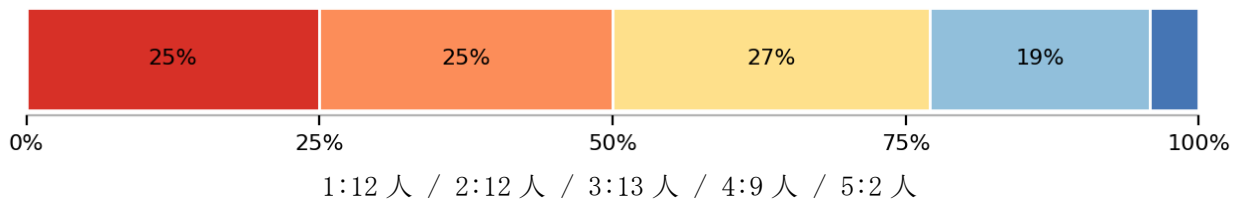
A3. [SSH が「3年間を通じた課題研究」を中核としていることを理解している（理数探究基礎→理数探究→論文文化）]



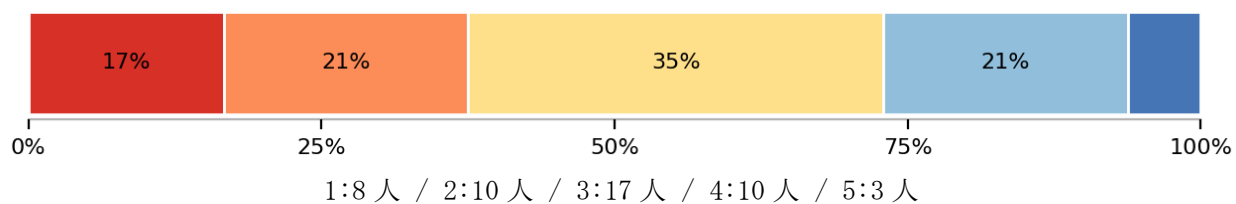
A4. [SSH 予算で「使える／使えない」の大枠を理解している]



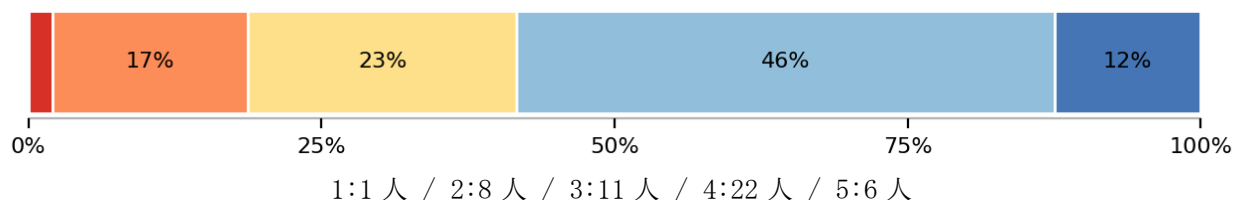
A5. [予算申請～購入～精算の流れを把握し、必要時に自力で進められる]



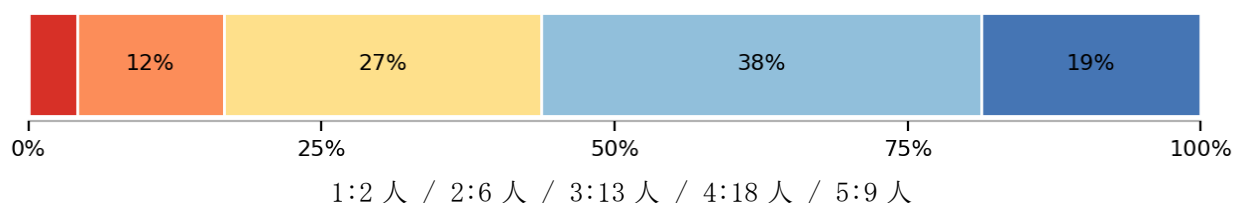
A6. [予算面の相談・申請を無理なく行える（心理的ハードルが低い）]



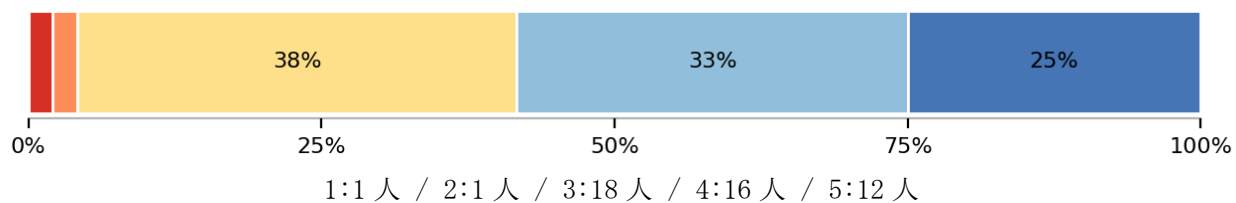
A7. [鎌高 SSH という「文理融合／総合知」が指すものを理解している]



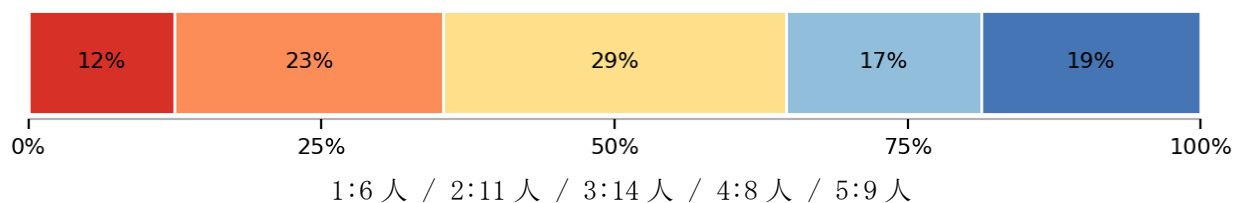
A8. [自分の教科・領域で文理融合／総合知を扱う方法のイメージがある]



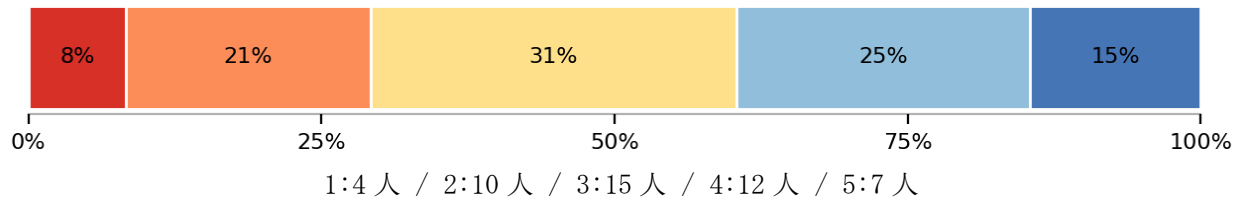
A9. [公開研究授業・研究協議・授業互観（他教科参観）が授業改善の仕組みとして機能していると理解している]



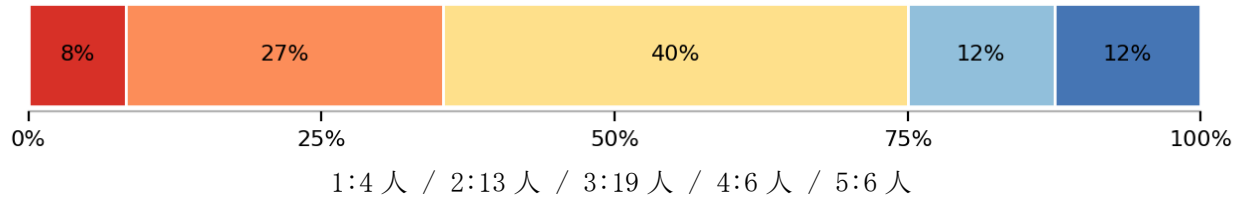
A10. [「5つの力」の内容（定義）を理解している]



A11. [授業・探究・行事等のどこで「どの力」が伸びるか具体例で示せる]

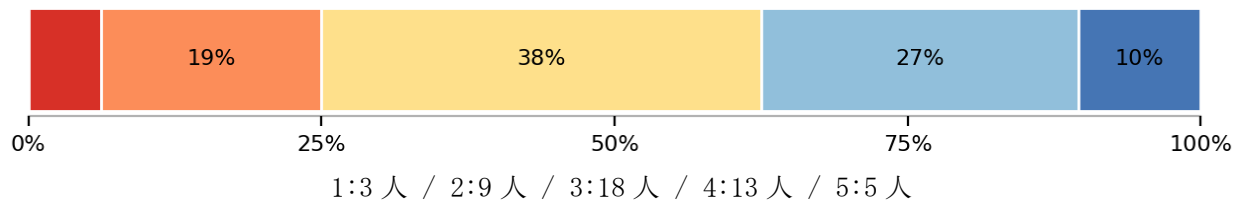


A12. [「5つの力」を教員間の共通言語として用いることに抵抗がない]

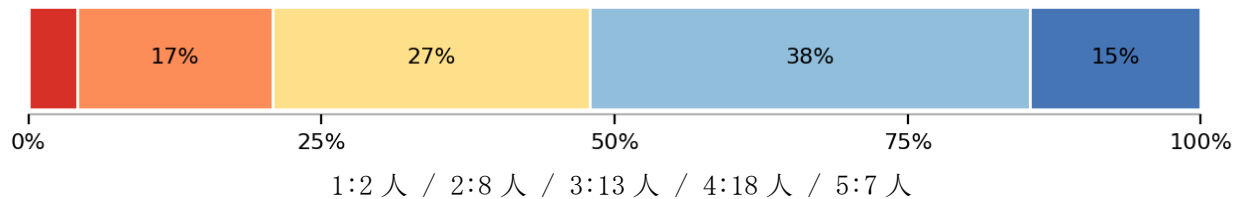


【B 授業・授業外の活動について】

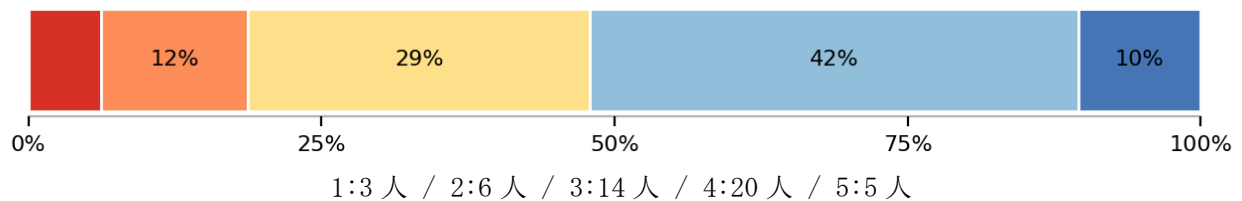
B1. [授業設計の段階で「どの力を伸ばすか」を意図している]



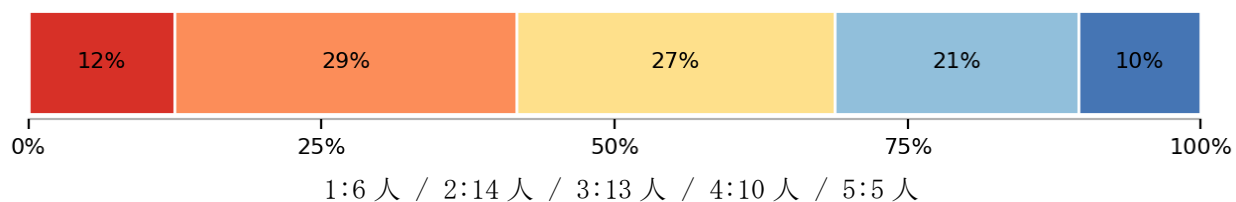
B2. [授業において生徒が根拠（データ・資料・引用など）を用いて説明する活動を入れている]



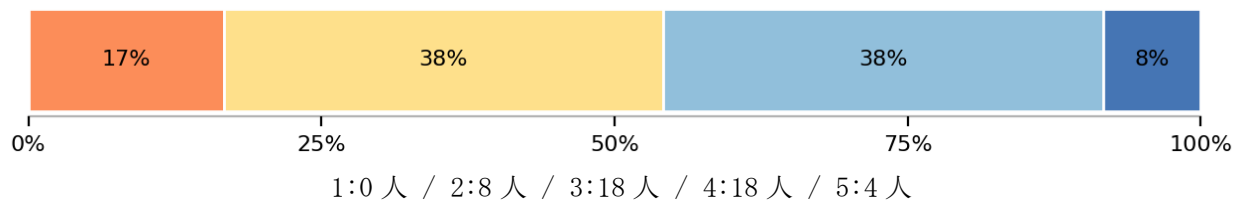
B3. [授業において複数の視点（社会・科学・倫理・データ等）を統合して考える問いを扱っている]



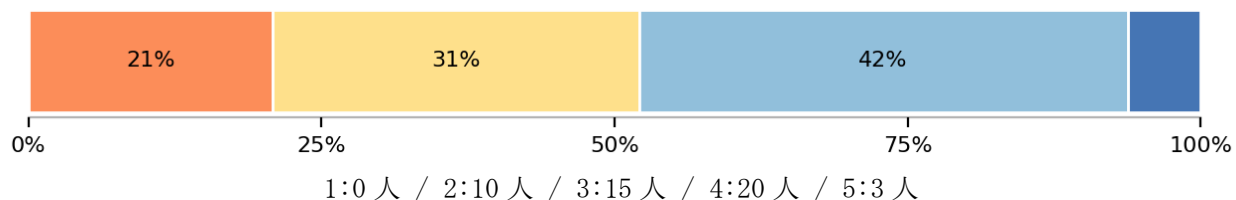
B4. [授業において「SSH トピック」を趣旨に沿って実施できている]



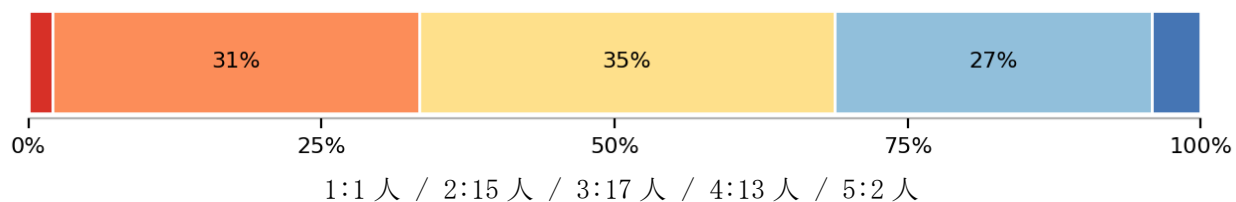
B5. 生徒が身に付いていると感じる力 (5 つの力) [クリティカルシンキング (根拠・データに基づく判断)]



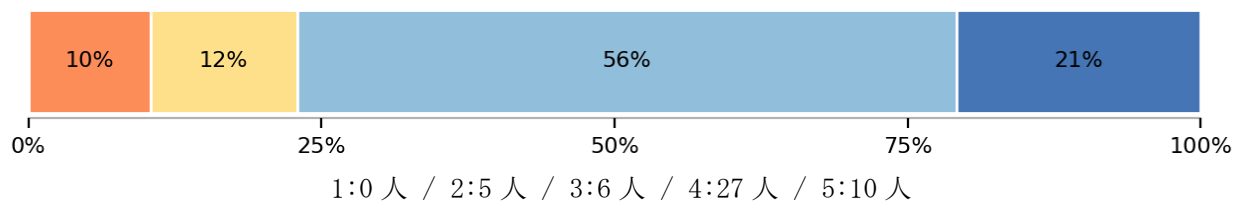
B6. 生徒が身に付いていると感じる力 (5 つの力) [データ分析・活用力 (収集→整理→分析→活用)]



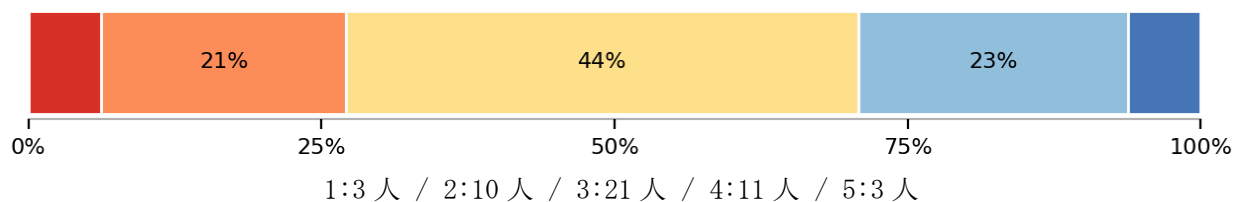
B7. 生徒が身に付いていると感じる力 (5 つの力) [課題発見力 (多面的・多角的に課題を見出す)]



B8. 生徒が身に付いていると感じる力 (5 つの力) [協働力 (他者尊重・調整・協働)]

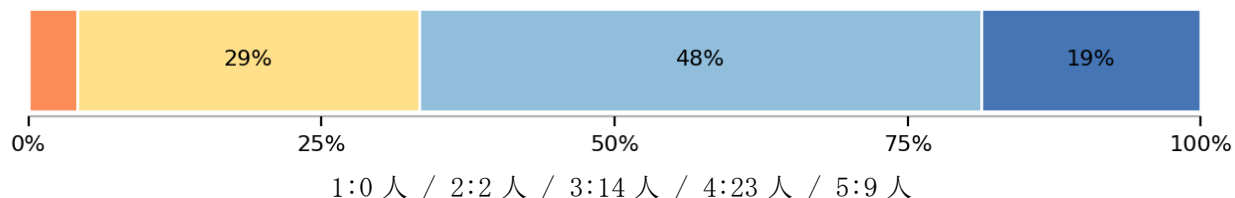


B9. 生徒が身に付いていると感じる力（5つの力）〔統合的思考力（多分野の知を統合して解決策を導く）〕



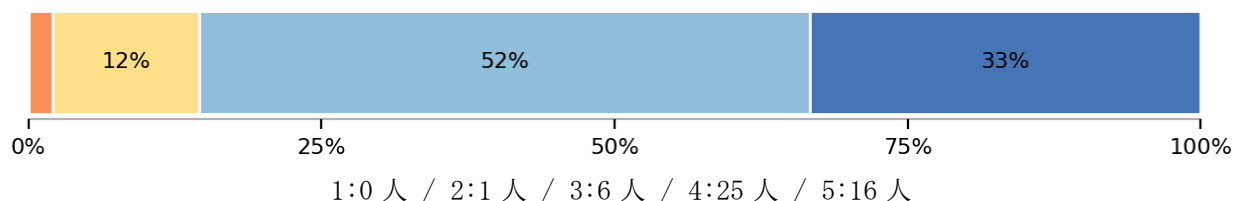
B10. SSHが生徒の進学意識・大学の学びに与える影響

〔SSHの経験は、生徒の進路選択（学問理解・志望形成）に良い影響がある〕



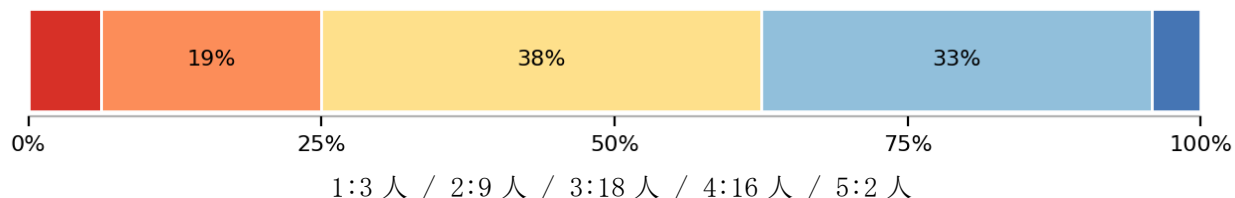
B11. SSHが生徒の進学意識・大学の学びに与える影響

〔SSHの経験は、大学で求められる学び（探究・レポート・発表等）につながる〕



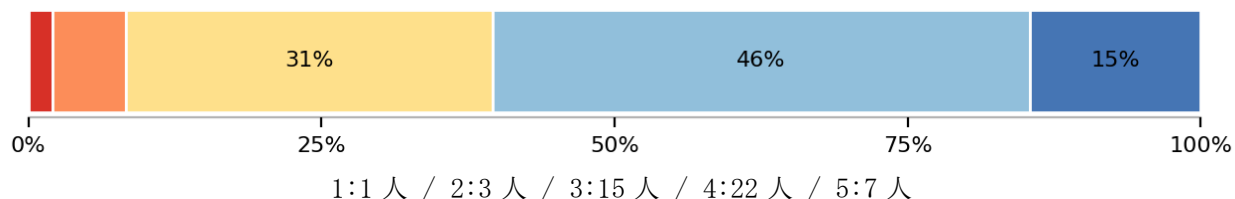
B12. 授業以外（HR・部活・委員会等）での「5つの力」の育成

〔HR・行事・委員会等で、生徒に「役割→振り返り→改善」の機会を意図的に作っている〕



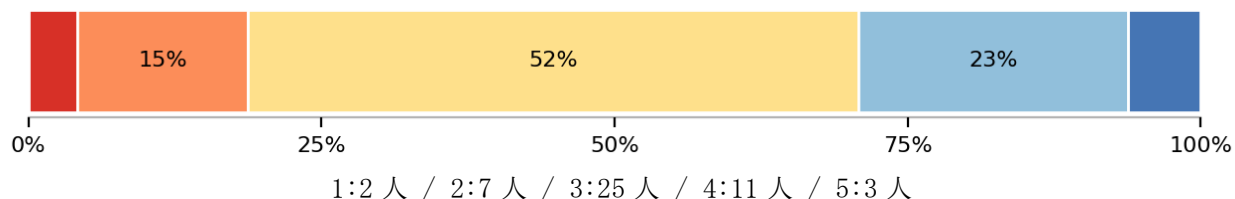
B13. 授業以外（HR・部活・委員会等）での「5つの力」の育成

〔部活動等で、協働・合意形成・やり抜きに関する関わり（声かけ含む）を意識している〕



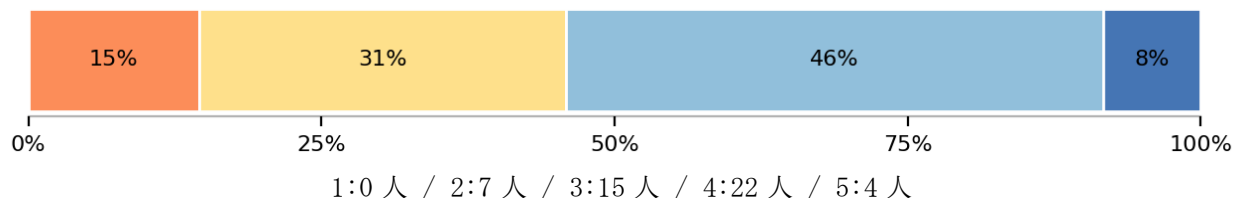
B14. SSHにより生徒へのアプローチがやりやすくなったか

[SSHの枠組み（教材・外部連携・予算等）により、授業改善の選択肢が増えた]



B15. SSHにより生徒へのアプローチがやりやすくなったか

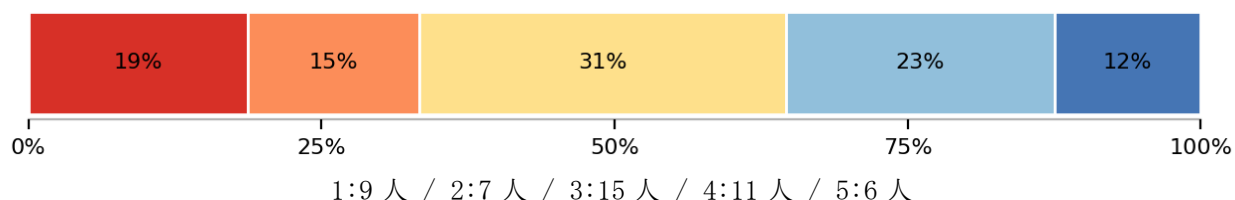
[SSHがあることで、生徒に探究的な活動を提案しやすくなった]



【C SSHの取組み業務に対する感じ方】

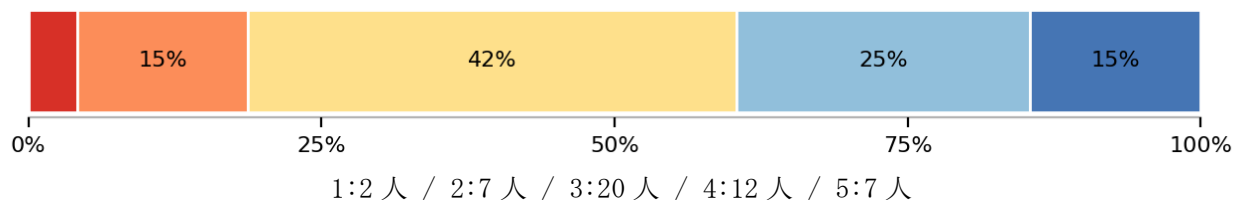
C1. SSHの取組みによりいそがしくなったか(負担感)

[SSH関連業務（連絡調整・資料作成・外部対応等）で業務量が増えた]



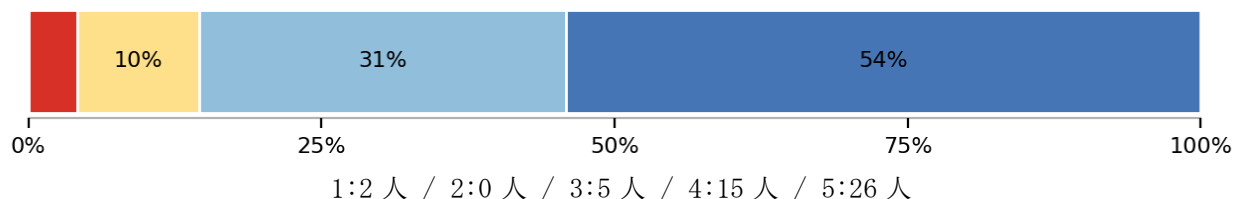
C2. SSHの取組みによりいそがしくなったか(負担感)

[課題研究の指導・助言（担当外の助言含む）に時間を要している]



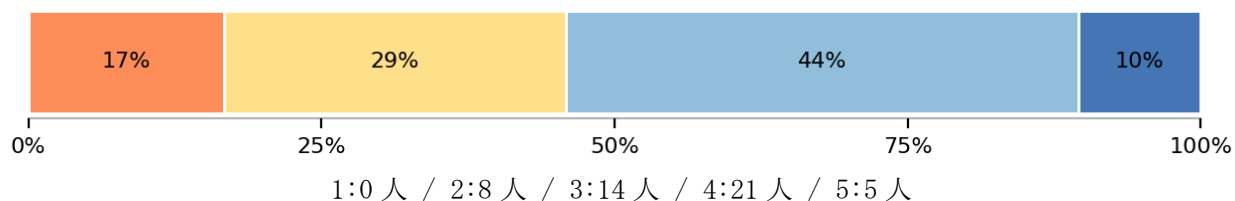
C3. SSHの取組みによりいそがしくなったか(負担感)

[SSH業務の負担は特定の人に偏りやすいと感じる]

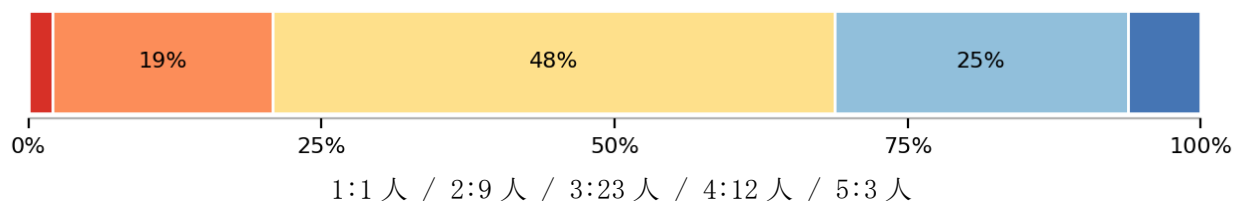


C4. SSHの取組みにやりがいや働きがいを感じるか

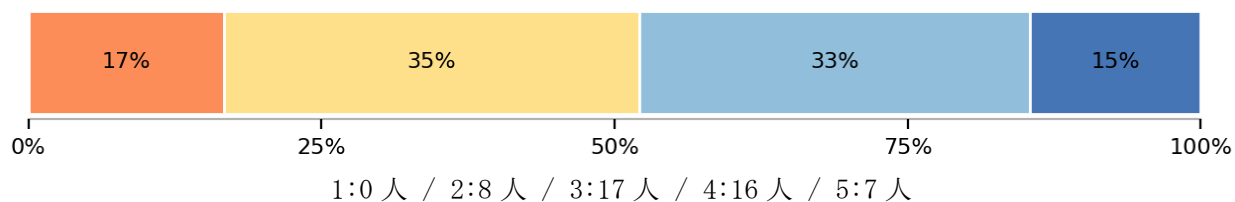
[SSHは教育的意義が大きく、続ける価値があると感じる]



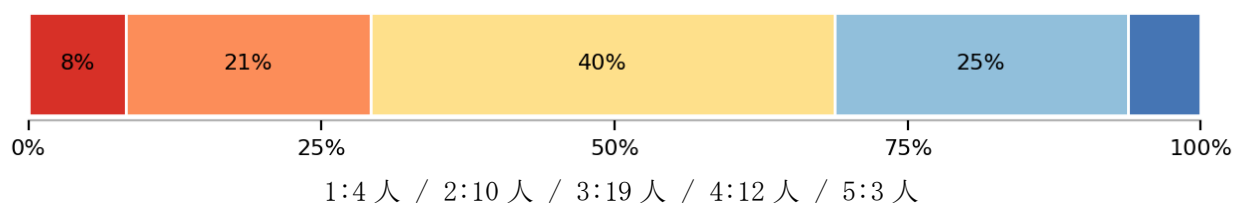
- C5. SSH の取組みにやりがいや働きがいを感じるか
[SSH を通じて、生徒の成長を以前より実感できている]



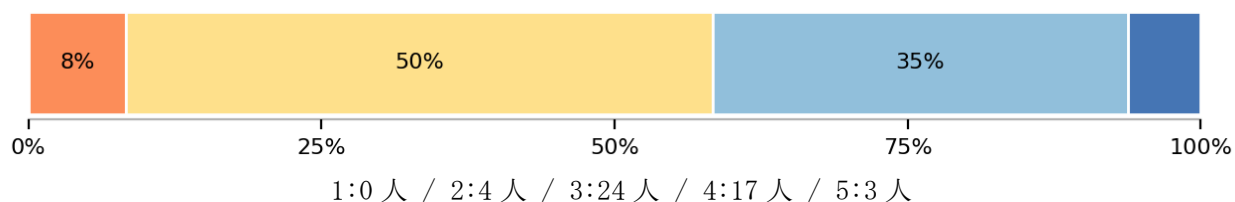
- C6. SSH の取組みにやりがいや働きがいを感じるか
[自分の授業改善・指導力向上につながっている]



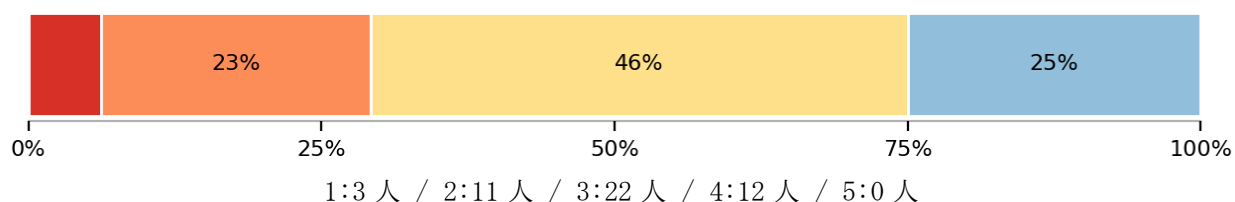
- C7. 教員間のコミュニケーションがとれるようになったか
[SSH をきっかけに、教科・学年を越えた相談が増えた]



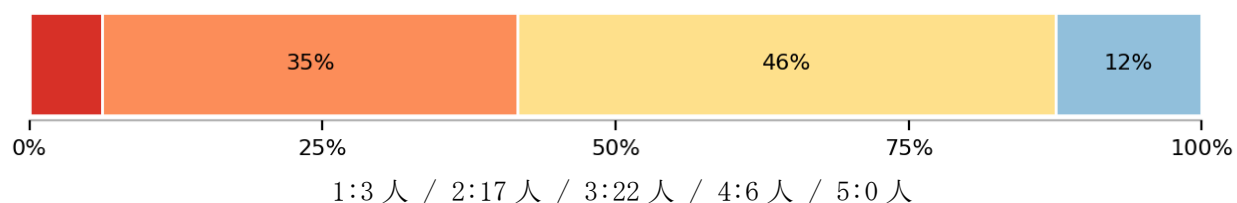
- C8. 教員間のコミュニケーションがとれるようになったか
[授業互観（他教科参観）を通じて、授業の見方・考え方を学べている]



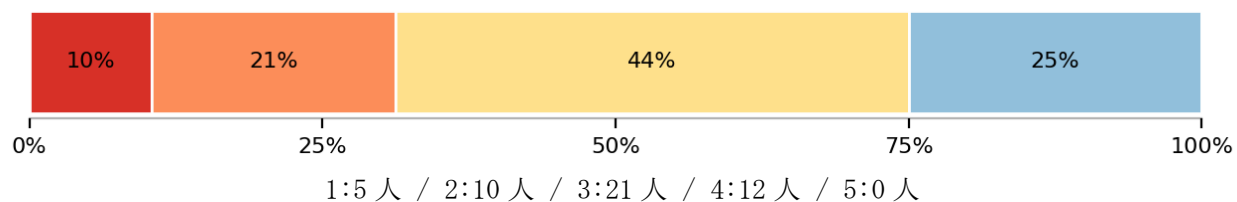
- C9. 教員間のコミュニケーションがとれるようになったか
[SSH トピックや取組の情報が「必要な人に必要な形で」共有されている]



- C10. SSH により、生徒育成ビジョンを他教員と共有できるようになったか
[「5つの力」を軸に、生徒に付けたい力の優先順位が教員間で概ね揃っている]



C11. SSHにより、生徒育成ビジョンを他教員と共有できるようになったか
 [SSHの成果と課題を踏まえた改善が、組織として回り始めている]



C12. SSHにより、生徒育成ビジョンを他教員と共有できるようになったか
 [「育てたい生徒像」が以前より共有されていると感じる]

